大学Times Daigaku Times

新たな視点から大学の今とこれからを知る新情報紙

2026年秋号 Vol.61

発行：(株) さんぽう 東京本社　大学支援事業部
〒151-0061　東京都渋谷区初台1-31-16　初台壱番館ビル
TEL 03-3378-7204　FAX 03-3378-7468
支社：名古屋,大阪,福岡　営業所：仙台,新潟,広島　ウェブ版 https://times.sanpou-s.net/

大学Times Web　https://times.sanpou-s.net/
「大学の今とこれからを知る」新Webメディア
大学の今を伝える特集記事、各大学の最新ニュース（イベント・セミナー・取り組み）、教育関連のニュースリリースを配信し、「大学の今とこれから」を伝える「大学Times」のWeb版です。アクセスは上記URL、または、「大学Times」で検索してください。



デジタル・グリーン特集　スペシャルインタビュー

SPECIAL FEATURE ARTICLE 特集

「成長分野転換基金」で大学・高専における理工・デジタル分野の人材育成強化及び文理分断からの脱却を推進 ～文部科学省高等教育局～



「理工系人材の不足」が叫ばれて久しい。2040年には職業間・学歴間の需給ミスマッチがさらに拡大し、その規模は数百万人に及ぶという※。自然科学系の人材不足の一方で、人文・社会学系は「大学を卒業しても職がない」事態が懸念され、就業ミスマッチは中長期の課題として深刻さを増している。文部科学省では成長分野を支える人材育成に舵を切った各大学・高専への支援を拡充するとともに、高校改革への支援も行っている。最近の動向について、文部科学省高等教育局の星幹崇氏に伺った。

※経済産業省産業構造審議会経済産業政策新機軸部会「2040年の就業構造推計（改訂版）について」（2026年3月5日）



文部科学省 高等教育局 専門教育課
企画官　星 幹崇（ほし まさたか）

岩手大学職員を経て2002年文部科学省入省。高等教育局私学部私学行政課、国立大学法人支援課専門職、千葉大学附属病院総務課長、東京大学財務部財務課長、高等教育企画課課長補佐（予算総括）等を歴任。本省では主に予算制度設計、大学・高専機能強化基金の創設、同見直し・積み増しを担当。2025年4月より現職。

AI等の進展で学問体系が変化 「デジタル」という横串を刺す必要性

理系とはいわゆる理工農や保健の各学問分野のことですが、近年はAI等の進化によって、従来の“縦割り”では社会から求められる人材育成に対応しきれなくなりました。変化する社会のニーズに対し、学生も「文理融合的に学ばなければならない」と認識しつつあります。融合的とは、例えば各学問分野に「デジタル」という横串を刺すような概念です。令和4年度に「成長分野転換基金」がスタートし、当初はデジタルを活用して社会課題を解決しようという取組が中心でした。しかし今日、社会の変化によってDXやGX自体が変わり、さらに生成AIの急激な進歩によって、デジタルの概念も変わってきていると認識しています。熟練した職人の世界では、自身の中でベストだと思った技を弟子に直伝してきました。しかし未来に遺すための“技術を可視化した伝承”に重要なのは（デジタル）データです。経済産業省が今年公表したデータ※では、2040年には我が国の産業構造の大きな変化が予想され、事務職（437万人）が余剰となる一方で、AI・ロボット利活用人材（▲339万人）や現場人材（▲260万人）が大きく不足する見込みで、この比率はマクロでも地域別でも、ほぼ同様の傾向にあるようです。

これまでの「成長分野転換基金」の成果と今後の課題

「成長分野転換基金」は理工・デジタル分野の人材増を目的とし、これまで272件（令和8年7月時点）が選定されました。本基金の取組によって現在、デジタル固有の情報通信の分野では比較的ミスマッチが解消されつつありますが、問題なのは他の分野にまで波及していないことです。

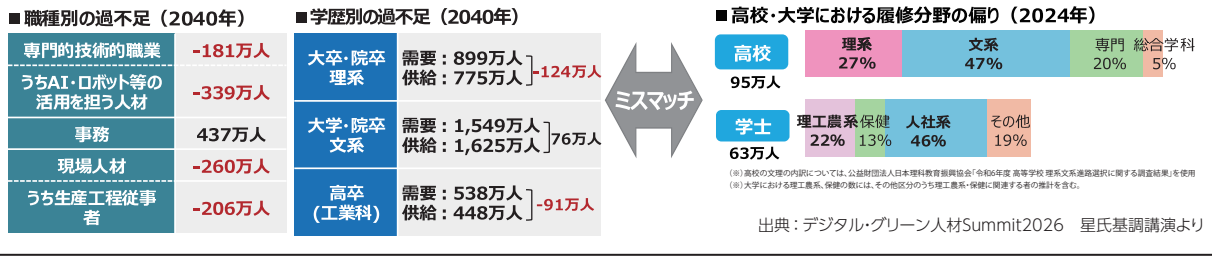
たとえば日本の農業は担い手不足が深刻な問題ですが、解決には先ず「稼げる農業」を目指さなければなりません。それには土地を集約化して安定収入を目指すことが重要であり、従来型の中小の農業にはない「データ活用」が、農業を変える大きなチャンスと捉えています。観光業でも同様の課題が指摘されています。グリーン分野は、資源エネルギーをはじめ環境問題や防災など多岐にわたるので、単一の学問分野だけでは課題解決には至りません。各々の垣根を越えて、横断的に各要素を掛け合わせていくことが求められます。

「人材育成システム改革ビジョン」成長分野転換基金対応のポイント

大都市圏における大学の学生は理系よりも文系の入学定員が非常に多く、特に東京23区内の大学は入学定員の総数12万人に対し、人文・社会学系9万人と、社会ニーズに対する文理バランスの不均衡が生じています。先ずは理工農・デジタル系を重視すると共に、人文・社会学系をダウンサイジングしながら教育の質を向上させ、社会や産業構造の変化に対応した大学を目指していただきたいと思います。決して人文・社会学系の軽視ではなく、すべての学生に文系・理系双方の学びが必要です。各大学が「文理分断からの脱却」の認識を持ち、例えば、ダブルメジャーなどにより、分野複合的に学習するような教育改革を行うことも手段の1つです。文理分断からの脱却は中長期的に解決しなければならない課題であり、最終形として理工・デジタル分野の強化や文理融合の実現を目指さなければなりません。2040年は人口動態によって大学入学者は46万人と推計され、現状から3割は減ってしまいます。それに対する危機感はどの大学も持っているかと思いますが、「現状の規模を維持したまま学生を集められるのか」「今と同じ学生の質を担保できるのか」と、今の規模が適正なのかどうかを真剣に検討したうえで、本基金というツールを活用して理工農・デジタル系への転換を検討し、各大学が“文理融合の実現”を果たしていただくことが重要です。

「地域構想推進プラットフォーム」で地域維持・発展の人材育成を

地域社会の維持・発展において必要不可欠なエッセンシャルワーカーは「社会インフラ」と考えています。保育や看護などの専門職を養成する大学・短大は、「地域構想推進プラットフォーム」を活用し、学長が知事と人材育成について話し合うことも重要です。皆が理工農系に変わればいいのではなく、地域の実情に見合った人材育成として、たとえば専門高校と短大で5年一貫教育を行い、20歳で地域に必要な専門人材を輩出、将来的にはリ・スキリングなど時代の変化に合わせた“社会と大学との学びの循環”から質の高い人材を供給し続けることも方策の一つです。「理系と文系」だけでなく「都市と地域」にも偏在が起こり、両方リバランスを図ることが必要なのです。



出典：デジタル・グリーン人材Summit2026　星氏基調講演より

高校教育改革と保護者・社会の意識改革は同時に進めなければならない

文理分断からの脱却には、高校も教育改革が必要です。大学が変わればすべて解決するのではなく、小中高と連続する学びの中で高校も変わらなければと考え「高校教育改革基金」を設けています。長い間、社会や保護者の「高校はとりあえず普通科」「女子は文系」「早めに理数科目を捨てて文系科目の勉強に注力し、偏差値を上げて、大都市部の有名大学に入学すれば生涯安泰」という意識が蔓延していますが、約7割を占める「普通科」の在り方の転換や、専門高校の機能強化・高度化を進める必要があります。日本の高校1年生の科学的リテラシーや数学的リテラシーは、世界的に見ても高く、特に女子の能力が評価されていますので、進路選択の早期化によって理数系科目を諦めることのないようお願いしたいです。近年の大学入試では、早稲田大学などの一部の大学の文系学部において、数学を必須科目に設定し、「理数の素養を持つ質の高い学生を獲得したい」という意思表示も見られます。

高校の進路指導の先生方へお願い

今は高校生の方が社会の動きに敏感で、自身の好きや興味・目的に数理の学びを直結させ、合理性があれば抵抗なく受け入れている印象です。「なんとなく文系」「つぶしがきくから文系」などの消極的選択の結果、早期に数・理を捨ててしまったら、将来の社会ニーズとマッチした人材になることは難しく、思うように就職ができず、路頭に迷ってしまうことになります。生徒一人ひとりの学びたい気持ちを大切に、自らの特性や興味・関心に応じた必然性ある学びを追求できる環境を整えつつ、進路指導をしていただきたいです。

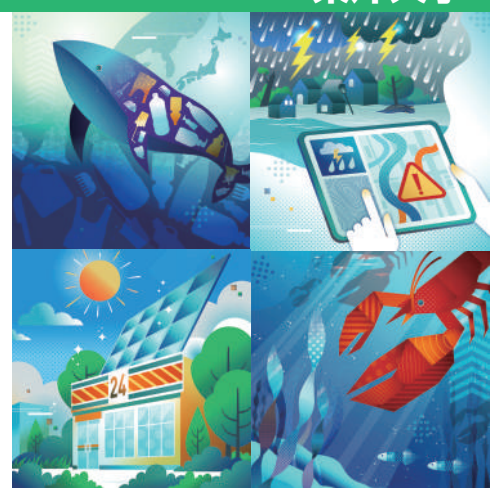
主な注目記事

1面～　デジタル・グリーン特集
　スペシャルインタビュー　文部科学省高等教育局
　新設学部情報　東洋大学
　大正大学
　デジタル・グリーン主要大学　オープンキャンパス情報
　キャンパスニュース【デジタル・グリーン編】
6面～　グローバル系大学特集
　卒業生&学部長インタビュー　東京外国語大学
　スペシャルインタビュー　獨協大学
　副学長メッセージ　国際教養大学
9面～　専門職大学特集　情報経営イノベーション専門職大学
　グローバルBiz専門職大学
10面下　入試情報　横浜創英大学
11面　最新研究特集　東京工科大学
12面　注目の学部・学科特集　第一薬科大学
13面　キャンパスニュース　日本大学ほか
14面～　探究学習特集
　受賞者インタビュー　佼成学園高等学校
　二松学舎大学附属柏高等学校
　スペシャルインタビュー　清明学院高等学校

デジタル・グリーン特集　東洋大学

問う、創る、伝える、ともに変える。「環境イノベーション学部」2027年4月開設

～東洋大学～



学生数約3万人、文系・理系合わせた幅広い学びを擁する東洋大学。創立者・井上円了の思いを教育の根幹として受け継ぎながら、いつの時代も社会的課題に挑戦し、発展を遂げてきた。
2027年4月、新学部「環境イノベーション学部」が開設。グリーン・デジタル技術を活用して環境の未来を「創る力」と、科学的根拠に基づき、その社会実装を促進する「伝える力」で、次の時代へのイノベーションを発信していく。

学部の特徴 実感と実体験を重視した学びで環境問題の解決に貢献する人材を育成

❶ 環境問題を解決する新しい技術・仕組みを生み出す力で社会課題に挑む

先端的なデジタル技術やデータ解析の手法を取り入れながら、テクノロジーの力で環境問題の解決に挑む「環境創造力」を養う。

❷ 専門家と人々をつなぐ科学コミュニケーション力を養う

社会一体となって取り組む姿勢をつなぐために、データや科学的根拠に基づき、専門家の知識や技術を分かりやすく伝え、様々な人々の理解と共感を引き出す「科学コミュニケーション力」を養う。

❸ 環境に配慮した実感と実体験の学び

エネルギー消費実質ゼロを目指す『ZEB』仕様の新校舎や、豊かな生態系を育むキャンパス内の「こもれびの森」をフィールドに、体験的で実践的な環境を通してつながりを学ぶ。


川越キャンパス環境イノベーション棟(イメージ)


新校舎内サイエンスカフェ(イメージ)

4年間の学び ～理系・文系どちらの強みも活かせるカリキュラム～

実感・実体験の学び(1～2年次)

1年次

「環境イノベーション概論」で今後、実現を目指すグリーン・デジタル社会の概観を学ぶとともに、「実地研修Ⅰ」で実際に環境施設の現場を調査し、自分の目と耳で企業等の取り組み姿勢を実感。そこから得られた気づきを次の理論を学ぶ科目へと繋げる。

2年次

「実地研修Ⅱ」で環境問題に取り組む官民のリーダーから社会に求められる環境学を学び、一人ひとりの将来ビジョンを具体化していく。「環境ビジネス論」「地理情報システム演習」「環境保全学」などを通して実際の課題解決につながる理論と実践知を獲得する。

専門的な学び(3～4年次)

3年次・4年次

「インターンシップ」による現場実習を通じて環境イノベーションとは何かを体現していく。「環境シミュレーション演習」「環境まちづくり論」「コンテンツ作成演習」など、より高度な内容を学修し、環境政策の社会実装に向けた実践的なスキルを習得する。

3年次秋学期 コース選択＆研究室ゼミナール

環境創造コース	科学コミュニケーションコース

3年次以降、「環境政策学」や、環境創造と科学コミュニケーションのコースごとの特徴ある演習と科目「地域エネルギー学」「環境市場調査」「環境心理学」などで専門性を高める。さらに4年次は学びの集大成として、「輪講、卒業研究／実習／制作」に取り組む。

＼＼ 実感と実体験にあふれた学び ／／

環境施設の調査実習(実地研修Ⅰ)



環境関連施設や環境配慮施設を訪問。実際に現場で起こっている問題について調査を行い、環境問題とその対策についての理解を深める。

経営者インタビュー(実地研修Ⅱ)



企業経営における環境配慮に対する考え方や取り組みについて、経営者にインタビュー。今、社会で求められている環境学について学ぶ。

こもれびの森でのフィールド実習



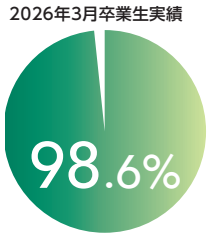
「こもれびの森」で観測や演習を実施。授業ではキャンパス内で測定した環境データを用いるなど、キャンパス全体が学びのフィールドとなる。

将来のキャリア

東洋大学の就職力

入学直後からキャリアや就職について考える力を養う支援プログラムを展開。就職活動対策だけでなく、自分らしいキャリアを築く力を育む。

2025年度 就職率
第1部 就職率
2026年3月卒業生実績



東洋大学卒業生の主な就職先

アクセンチュア／Apple Japan／アマゾンジャパン／大塚製薬／オリエンタルランド／カルビー／キーエンス／KDDI／講談社／コーセー／サイバーエージェント／JTB／清水建設／全日本空輸／ソフトバンク／東京電力ホールディングス／TOPPAN／トヨタ自動車／ニトリ／日本アイ・ビー・エム／日本航空／東日本電信電話／東日本旅客鉄道／日立製作所／富士通／ブリヂストン／本田技研工業／みずほ銀行／三菱電機／森永製菓／ユニ・チャーム／楽天グループ／ロッテ

環境イノベーション学部から結びつくキャリア一例

まちづくり ×環境

私たちの住環境や生活環境を支え、持続可能なまちづくりに貢献する業種として、建設業、不動産業、インフラ、行政などがある。

IT ×環境

低炭素システムの構築、環境データ分析ツールの開発など、環境負荷を最小限に抑える「グリーンテック」は将来性の高い注目分野。

商社 ×環境

私たちの住環境や生活環境を業投資、省エネ・創エネ製品の輸出入など、商社は環境技術産業と市場をつなぐ役割を担っていく。

取得可能な資格

教育職員免許状
- 高校教諭1種(理科)
- 中学教諭1種(理科)

国家資格
- 技術士補
- 環境計量士
- 公害防止管理者
- 情報処理技術者

協会認定資格
- 脱炭素アドバイザー認定資格

東洋大学

文学部　法学部　国際観光学部　健康スポーツ科学部　環境イノベーション学部
経済学部　社会学部　情報連携学部　理工学部　生命科学部
経営学部　国際学部　福祉社会デザイン学部　総合情報学部　食環境科学部

デジタル・グリーン特集　学部長インタビュー

デジタルの力を実社会に活かして 自然と共生し、文化を未来へつなぐ 真の「文理融合の学び」とは　～大正大学～



大正大学は創立100周年を迎え、2026年を“第二の開学”と銘打っている。今春、初の理系学部「情報科学部」が誕生し、「グリーンデジタル情報学科」「デジタル文化財情報学科」として実学と教養、さらにPBLを重視した新しい発想のデジタル人材の育成に舵を切った。同大学の目指す「文理融合」の姿とは。井上雅裕学部長に展望を伺った。



大正大学　情報科学部長　**井上 雅裕**(いのうえ まさひろ)
デジタル文化財情報学科教授
博士(工学)／技術士(情報工学部門)／PMP
シニア教育士(工学・技術)
1980年より三菱電機株式会社で研究所、事業部門を歴任。2005年より芝浦工業大学システム理工学部教授、副学長。2021年より慶應義塾大学大学院システムデザインマネジメント研究科特任教授。2025年4月より大正大学教授、2026年4月より現職。

「文理融合」「実践教育」「幅広い進路」

情報科学部はプログラミングやAIを含めて、基礎から体系的に情報科学をしっかり学び、社会課題に向き合い新しい価値の創造を目指しています。教員も半数が企業の研究職や官公庁の環境や防災の経験者、文化施設の責任者などが着任しています。これまでの社会経験を大学教育に活かし、バーチャルではなく具体的に「こういう仕事が社会に役立つ」という姿を示しながら、学生の幅広い職業観の醸成にも寄与していきます。

情報技術を活用した自然との共生や 地域発展を目指す「グリーンデジタル情報学科」

情報技術を活用した自然との共生や、地域の発展を目指し、防災、環境保全、都市計画、スマート農業、スマートシティなど、安全で住みよい街づくりを学びます。

この夏は豪雨災害が各地で起こりましたが、1級河川や国道には国土交通省が冠水センサーを設置しているものの、浸水・冠水の被害はむしろセンサーの無い2級以下の河川や道幅の狭い生活道路で多く発生しました。本学では過去に被災した地域の住民と協力し、小さな河川や生活道路に独自の防災管理システムの設置を行って、緊急時には各自のスマホへLINEの情報提供に取組んでおり、高い評価をいただいています。防災減災のDX推進は喫緊の課題であり、自治体や官公庁でも情報技術を学んだ人材を希望しています。しかし従来の情報工学科の学生は、就職先に「IT企業」を選択する傾向が強く、IT人材の偏在が日本のデジタル化の遅れにもつながっているのです。IT企業だけでなく、一般企業や公務員など活躍の場は多様なので、本学部はその点も一石を投じたいと考えています。



真新しい研究室が学生を迎える

最新の情報技術や科学的知識を使って 文化財や自然遺産を保存し活用する 「デジタル文化財情報学科」

現在、博物館等に所蔵している文化財は展示物よりも倉庫に眠る資料の方が圧倒的に多く、保管場所の確保や劣化による廃棄が課題となっています。複数方向からの写真撮影による3D計測やレーザースキャンなどでデジタル化することで、精密なデータとして保存でき、研究をはじめ、観光資源や教育に活用するなど、文化財をデジタルとリアルに結び付けて地域の価値を高めることを目指しています。

さらに自然遺産は、AI搭載ドローンを使ったスキャニング技術によって経年変化の様子がわかり、建造物は修復のためのデジタルデータを作成し、AIによる修復作業を効率化します。手作業では長期間を要する大規模修復も、AI解析や画像処理を活用することで、作業の効率化や費用低減が可能となります。社会ニーズも多岐にわたり、自治体の観光や文化振興、博物館、美術館、デジタルコンテンツ制作は新しい教科書作りに寄与します。デジタルによって、今後は途上国の遺跡修復支援など、IT企業とは一線を画した幅広い分野での活躍が期待できます。また、本学科は「学芸員」国家資格が取得できます。取得に必要なカリキュラムを本学内で受講できるので、デジタル技術を修得した本学科卒業生が「これからの学芸員像」をリードしてもらいたいと希望しています。

「誰一人取り残さない」サポート体制で行う 初年次の共通基礎科目

1年生は両学科共通で基礎科目を学び、2年生以降の専門科目のための知識・技術を身につけます。専門科目を履修するうえで必要な数学・科学とプログラミングを学びますが、本学部は「文系入試」「理系入試」を経て入学した学生が半数ずつ在籍し、多様な学生が学び合う形なので、理数系の学力レベルで双方が不利益にならないよう、学びの体制を整えました。「プログラミング入門」では、担当教員とチューター、技術職員が連携してサポートする体制のもと、授業では自習の際に「わからないことはAIに尋ねて」エラーを解決し、身につけた知識を次回小テスト(自力回答)で確認します。テストは毎回実施し、すべての学生の習熟度が目標に到達できるよう、きめ細やかにサポートしています。

充実した学修環境で五感を使った学びを実践

本学部校舎の1階に「i-Lab(アイラボ)」という支援拠点があり、チューターと技術職員が常駐して実習用の機材使用や学生からの授業や実習の不明点を聞きながら、ワンストップでサポートしています。またキャンパス内にはTOPPAN(株)協力のもと、8K超高精細VRシアター(写真参照)を建設しました。施設が少ないデジタル文化財を身近に体感できる、充実した学修環境を用意しています。



組み込み型コンピュータ

i-Lab(アイラボ)

さらに入学後間もなく、実習として湿度や光のセンサーを内蔵した“組み込み型コンピュータ”(写真参照)を全員で作りました。手を動かして問題解決する学修、PBL(プロジェクトベースラーニング)に力を入れ、1年生から研究の体験プロジェクトに取り組み、数学を学ぶ意義や卒業研究のイメージを醸成します。学生がそのまま高校生向けの体験会で説明するなど、入学直後の取組がモチベーションアップになり、今後の学びを自覚して大きな効果がありました。

企業や社会で必要とされる 幅広い情報系人材の育成を目指す

プログラミング言語などのテクノロジーは2~5年で変わりますので、大学で学んだことが未来永劫通用するわけではありません。技術の回転が早く、生涯勉強し続けることが必須となります。ただし開発のサイクルである、問題を分析⇒把握⇒基本設計⇒プログラミング⇒評価⇒社会実装⇒課題抽出⇒改善、という流れはどこへ行っても変わりません。

社会で必要とされる情報系人材の能力は①コミュニケーション(ユーザー、チーム、ベンダー各々の対話が必須)②プロジェクトマネジメント(計画と目標遂行)、③情報システム開発とセキュリティ運用です。今後、データ分析やプログラミングの多くの作業がAIによって支援・自動化されていきます。そのため、人間ならではの、人や社会のニーズに寄り添った仕事ができる情報系人材が求められます。

本学部では、これからの情報系人材に不可欠な実力と資格を見据えた幅広いサポートを行っていきます。本学部は、一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)による、国際的に通用する技術者教育プログラムの認定を取得する計画です。認定取得後は、認定プログラムの修了者が『技術士補』となるための資格を得ることができます。

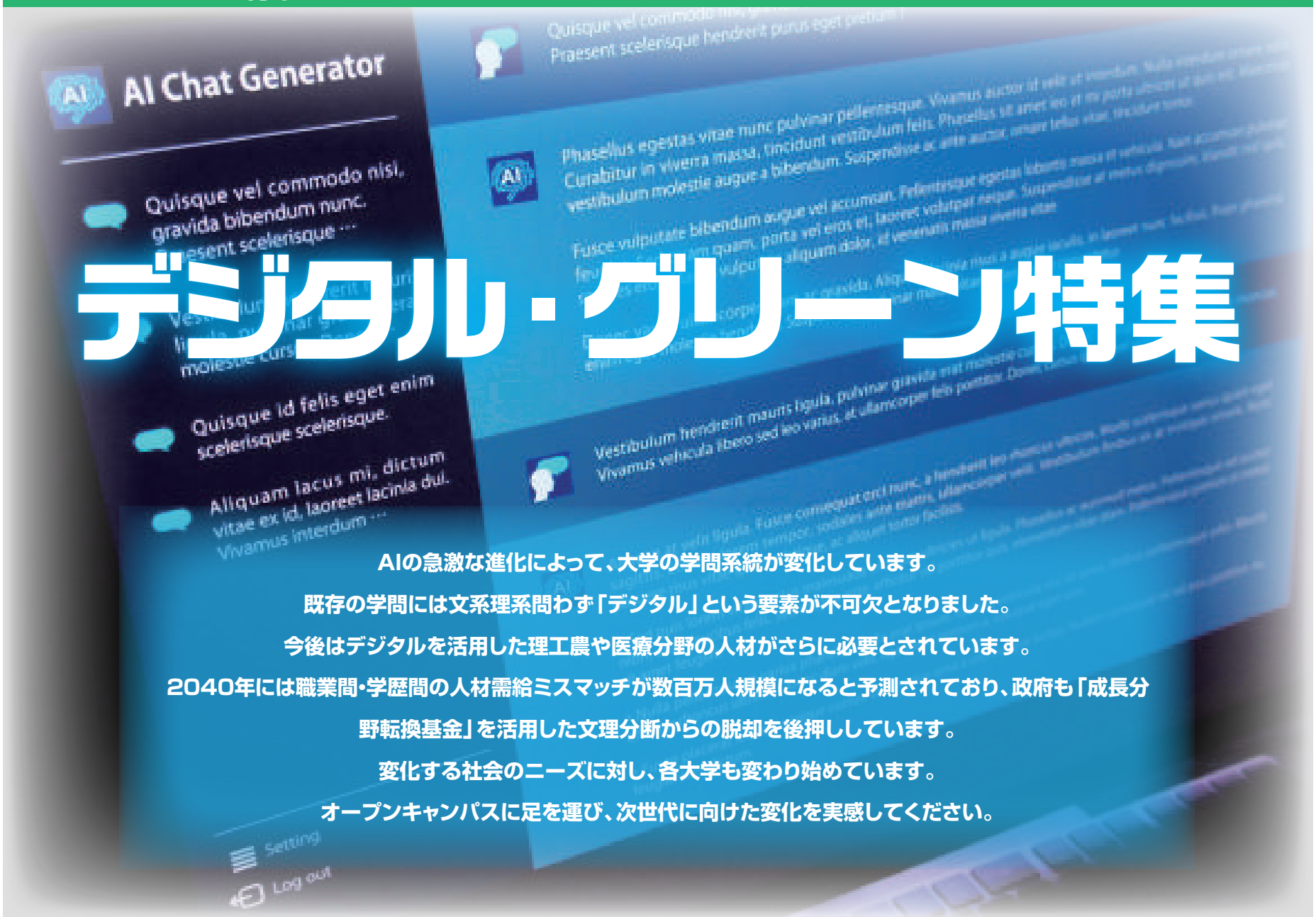
文理融合を体感できる新しい学びのフィールドへ

VRやプログラミング、データサイエンスなどの情報技術に興味を持つ高校生は、本学部で学び、活躍のフィールドを見つけてほしいです。また文化財や社会課題に関心のある高校生は、情報科学を学ぶことで、真の「文理融合」を目指してほしいです。提案だけでなく開発から分析検証まで、自分でできる喜びを本学部で是非とも体感してください。



VRシアターイメージ

デジタル・グリーン特集



デジタル・グリーン特集

AIの急激な進化によって、大学の学問系統が変化しています。
既存の学問には文系理系問わず「デジタル」という要素が不可欠となりました。
今後はデジタルを活用した理工農や医療分野の人材がさらに必要とされています。
2040年には職業間・学歴間の人材需給ミスマッチが数百万人規模になると予測されており、政府も「成長分野転換基金」を活用した文理分断からの脱却を後押ししています。
変化する社会のニーズに対し、各大学も変わり始めています。
オープンキャンパスに足を運び、次世代に向けた変化を実感してください。

国立大学法人 滋賀大学

■住所 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号

■問合せ先 入試課 ☎0749-27-1023

■デジタル・グリーンが学べる学部・学科
データサイエンス学部

■特色・特徴など
2017年、日本初の「データサイエンス学部」を開設。多様な領域のデータを解析、新たな知見を引き出して価値の創造を目指すデータサイエンティストを育成します。日本のデータサイエンス教育・研究の中核的大学を目指しています。

▲入試情報ページ



広島県公立大学法人 県立広島大学

■住所 〒734-8558 広島県広島市南区宇品東1-1-71
■問合せ先 本部事務部 入試課 ☎082-251-9540
■デジタル・グリーンが学べる学部・学科
地域創生学部・情報学科
■特色・特徴など
数理・データサイエンスやIoT・AIを含む情報技術を学び、地域課題の解決のために身につけたデータ分析やアプリや情報システム開発等のスキルを応用していける人材を育成します。情報学を学ぶ意欲があれば文系・理系は問いません。

▲公式HPサイト

▲情報学科特設サイト



東京都市大学(旧 武蔵工業大学)

■住所 【世田谷キャンパス】〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1
■問合せ先 入試課 ☎03-6809-7590
■デジタル・グリーンが学べる学部・学科
創発デザイン工学環(2027年4月新設) 理工学部 建築都市デザイン学部 情報工学部 環境学部 メディア情報学部 デザイン・データ科学部
■特色・特徴など
【創発デザイン工学環】
工学分野の専門知識・技術とデザイン分野の思考力を融合させた学びにより、イノベーションの創発と社会実装を担う人材を育成します。理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部を連係協力学部として、分野横断型のプログラムを提供。「デザインスタジオ(仮称)」ではプロトタイピング(試作検討)に挑み、アイデアを形にする力を磨けます。

▲公式サイト



東京理科大学

■住所 〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3
■問合せ先 入試センター ☎0120-188-139
■デジタル・グリーンが学べる学部・学科
理学部第一部・工学部・薬学部・創域理工学部・創域情報学部・先進工学部・経営学部・理学部第二部
■特色・特徴など
学部から大学院まで一貫してデータサイエンスに係る知識・技術を学修できる「データサイエンス教育プログラム」を実施。プログラムは4つのレベルで構成されており、それぞれの修了要件を満たすことで、レベル毎にオープンバッジが獲得できます。

▲公式サイト

▲受験生応援サイト



法政大学

■住所 〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
■問合せ先 入学センター ☎03-3264-9300
■デジタル・グリーンが学べる学部・学科
数理・データサイエンス・AIプログラム(MDAP)
※全学部生が受講できる大人気プログラムです。
■特色・特徴など
大量で多様なデータが現代社会における様々な現象の解明や意思決定にどのように役立っているのか、その重要性と価値を理解し、ビッグデータが社会にもたらす影響等を考察します。また、データを実際に扱ってデータサイエンスを体感するとともに、実社会の中でどのように役立てているのか豊富な実例から学びます。

▲入試情報

▲数理・データサイエンス・AIプログラム(MDAP)



関西大学

■住所 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35(千里山キャンパス)
■問合せ先 入試センター 入試広報グループ ☎06-6368-1121(大代表)
■デジタル・グリーンが学べる学部・学科
システム理工学部 グリーンエレクトロニクス工学科(2026年4月開設／千里山キャンパス)
■特色・特徴など
環境に配慮した電子工学技術を中心に学ぶ日本初の学科です。スマートフォン、電気自動車(EV)などに搭載される「半導体デバイス」を対象に、ハードウェアとソフトウェアの両面から省電力設計や資源循環型素材、エネルギー効率の高いAIアルゴリズムの開発を学びます。
さらに、クリーンルームでの実験・実習や企業との連携によるPBL(プロジェクト学習)、海外大学との共同研究などを通じ次世代エレクトロニクスを支える実践力を身につけます。

■3月開催のオープンキャンパス情報
2027年3月21日(日)
フレッシュキャンパス<千里山>

▲グリーンエレクトロニクス工学科



宮城大学
新学群「デザイン創学群(仮称)」を2028年4月に設置構想中
横断的に学んだ知識で未来をデザインする力を育む

宮城大学は2028年4月に「デザイン創学群（仮称）」を設置構想中だ。同学群では工学、科学、人文・社会科学、芸術、ビジネスなどの多様な分野の知識を横断的に学び、未来を自らデザインする力を育むとしている。同大学は学群名における「デザイン」の考え方として、人や地域、技術、文化、自然など、多様な要素のつながりを読み取り、まだ形になっていない可能性を見つけ、新しい価値を構想し、社会の中で実践、実現する力だとしている。学群の単位取得は必修の「デザイン創学I-Ⅳ」を軸としているが、124単位のうち92単位は自分の関心から自由に学べるカリキュラムを想定している。（参照：大学HP）

三重大学
『フードテックグランプリ2026』で最優秀賞を受賞
AI解析とラマン界面プローブで発酵管理が可能に

三重大学の内藤啓貴助教授が代表を務めるチーム『アマテ』が10月10日、『フードテックグランプリ2026』で最優秀賞を受賞した。フードテックグランプリは「サステナブルな食産業を生む」技術を集め、実装可能なプロジェクトを生み出すことを目指し開催されている。今年度は国内外から341チームが応募したが、『アマテ』は『ラマン界面プローブとAI解析による発酵管理DX』をテーマにプレゼンテーションした。この技術は、ラマン分光技術（物質にレーザーを照射し物質の表面から散乱した光を分析する化学分析技術）とAI解析を組み合わせ、酒蔵などにおける発酵の進行状況を、容器を開封したりサンプルを採取したりせずに把握できる。酒造業に限らず、幅広い産業分野への応用が見込まれる。日本の伝統技術である発酵を世界に広める可能性があるとして高く評価され、最優秀賞に選ばれた。（参照：公式HP）

岡山大学
岡山県吉備中央町で自動配送ロボットの実証フィールドを開設
歩きづらい道もある環境を逆手に

岡山大学は加賀郡吉備中央町に自動配送ロボット・小型モビリティの走行実証フィールドを整備し開設した。中山間地域にあたるが、計画都市・吉備高原都市を中心に歩道が広く整備されている。また、砂利、段差、通信インフラの弱さといった、都市部の整備されたフィールドにはない条件があるのが大きな特徴で、社会実装の検証に向いている。地図・許認可・保管・宿泊などの環境も調整済みで、参加企業・研究機関も募集中だ。同大学の長谷井嬢教授は「町と大学と企業が一緒になって、中山間地域の暮らしを支えるモビリティの未来をつくる、この広大なフィールドで、皆さまのご参加を心よりお待ちしております」とコメントしている。（参照：大学HP）

広島大学
社会人のリ・スキリングで半導体業界に貢献
9月には太陽電池の基礎知識などが学べる説明会を実施

広島大学は文部科学省の令和7年度補正予算「産学連携リ・スキリング・エコシステム構築事業」に応募し、採択されたと発表した。この事業では広島大学半導体産業技術研究所が主導となり「広島大学半導体リカレントアカデミー」を開設。社会人のリ・スキリングを通じて、半導体業界の発展に貢献することを目指す。2026年9月に実施された説明会では、半導体初等実践として太陽電池の基礎知識と作成実習や最先端の半導体産業の全体像などが学べた。（参照：大学HP）

千葉大学／東京理科大学
「職人技」だった電源回路設計
共同研究によりAIで自動設計する手法を開発

千葉大学大学院情報学研究院と東京理科大学工学部電気工学科の研究チームは、高周波電源回路をAIで自動設計する手法を新たに開発した。高周波電源回路は主に電気自動車（EV）やデータセンターなどで使われており、電源回路が不可欠である。機器の小型化や省エネルギー化が年々進歩する中で、電源回路にも同様の改良が求められている。高効率と小型化は両立が難しい相克の関係にあるが、この研究では目的に応じてAIが探索と最適化を行い、膨大な設計候補の中から選び出せる手法を開発した。今回の手法はさまざまな電力変換回路や異なる設計条件へ展開できるため、データの収集で設計の高速化も期待されている。（参照：公式HP）

順天堂大学
アルツハイマー病に対する「老化細胞除去治療」の研究を開始
ワクチンや抗体などで新たな治療法の開発を目指す

順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学の研究グループは、アルツハイマー病に対する老化細胞除去治療の開発を開始する。同大はこれまでの研究で、加齢とともに体内に蓄積され、慢性炎症や様々な加齢関連疾患の原因となる「老化細胞」に着目。2021年には、老化細胞除去ワクチンを世界で初めて開発し、マウス実験において疾患の改善を報告している。これをアルツハイマー病研究へ応用し、治療効果やメカニズムを明らかにするのが狙いだ。また、ワクチンや抗体などを用いた新たな治療法の確立し、将来的には臨床応用を目指す。（参照：公式HP）



上智大学
理工学部にデジタルグリーンテクノロジー学科を2027年4月新設
GXを牽引するためカリキュラム全てを英語で提供

上智大学は2027年4月、理工学部にデジタルグリーンテクノロジー学科を開設する。世界人口が100億人に迫る未来を見据え、GX（グリーントランスフォーメーション）を牽引する学部だとしている。同大学は新設学科の背景として、近年地球規模で深刻化している気候変動や資源制約などを背景に、脱炭素を目指しながらエネルギーの安定供給と持続的な経済成長を続ける取り組みであるGXを担う人材育成が必要だと説明。データサイエンスの知識を他分野と融合することで、従来の枠組みを超えた新たな価値創出につなげるとしている。また、多様なバックグラウンドを持つ学生が課題に取り組む力や国際社会で活躍する実践力を養うため、カリキュラムの全てを英語で提供予定だ。（参照：大学プレスリリース）

中央大学
「農業×テクノロジー」の学びを提供する情報農学部（仮称）を2028年4月開設に向けて構想中
農・食・環境分野の社会問題を解決に導く

中央大学は2028年4月に向け「情報農学部」（仮称・設置構想中）の新設を構想している。同大学は日本の農業について、人口減少や高齢化、耕作放棄地の増加、気候変動、食の安定供給など、様々な課題を抱えていると指摘。これらに対してドローンや農業AIなどの最先端テクノロジーを農業に活用する「AgriTech」で解決するとしている。学部では経済発展と環境保全の両立に向けて、持続可能な社会の実現に貢献する人材を養成。農学に関する幅広い専門知識と情報科学をはじめとした最先端の技術を融合的に学べるカリキュラムを展開する。（参照：大学プレスセンター）

近畿大学
「AIネイティブ大学」の実現へ
全学部1・2年生・全教員へ教育機関向けGemini有償版のライセンスを導入

近畿大学は2026年9月2日、学部の1・2年生と教職員の21,138人を対象に、GoogleのGeminiアプリケーションの有償版である「Google AI Pro for Education」のライセンスを導入した。同大学はグーグル・クラウド・ジャパン合同会社とAI人材育成モデルの確立や生成AIを活用した学生支援、大学運営、研究支援の高度化に向け、包括連携協定を締結。有償版ライセンスはこの協定に基づく取り組みの一環となる。また、2026年度の後期授業では生成AIを活用した学生支援窓口のオンライン化に向けたトライアルを開始。「AIネイティブ大学」の実現に向け、AI人材育成、学生支援、大学運営、研究支援の4領域で取り組みを推進するとしている。（参照：大学プレスリリース）

iU 情報経営イノベーション専門職大学
2027年度入学者選抜に「生成AI活用型」選抜方式を新設
AI方針では「iUはAI大学になる!」が目標

iU 情報経営イノベーション専門職大学は、2027年度入学者選抜より、総合型選抜に「生成AI活用型」選抜方式を新設すると発表した。iUは導入の背景として、知識量の多寡を競う従来型の評価から一歩進み、AIとの協働を通じて課題を創造的に解決する力や論理的な技術活用力を評価するためと説明。試験の評価項目に従来型の書類審査や面接などの他に「生成AIを活用した成果物の提出」をあげている。iUではAI方針として「iUはAI大学になる!」を掲げており、AIを「共創のパートナー」と位置付けているが、今回の新方式導入はその理念に基づくものだとしている。（参照：公式HP）

グローバル系大学特集　学部長＆学生インタビュー

地域研究×専門分野×世界教養×留学 学生生活を通じた自己成長を考える
～東京外国語大学～



グローバル社会が加速する今日、大学で何を学び、卒業後は世界でいかに生きていくかを見据えた大学選びが重要となっている。受験生は高校時代どのように「大学進学」と向き合って入試を乗り切り、その後の4年間を過ごすのだろうか。今回は東京外国語大学国際社会学部4年生で卒業を直前に控えた（取材時）樽林輝奈乃（2025年度国際社会学部賞受賞）さんと千葉敏之国際社会学部長の対談を通じて、志望校決定の過程から入学後の学び選択、さらに留学、就職までの学生生活を振り返り、大学での学びと自己成長について考えたい。



東京外国語大学　国際社会学部　学部長
千葉 敏之 教授（写真左）（専門:ドイツ・ヨーロッパ中世史）
国際社会学部 アフリカ地域専攻4年（取材時）
樽林 輝奈乃 さん（写真右）（静岡県常葉大学附属菊川高等学校出身）

高1から3度大学を訪問して 東京外大を志望校に決定

樽林　「元々英語や海外に興味があり、東京外国語大学に憧れを抱いていました。地方在住ですが高校生向けの体験授業や外語祭（東京外大の学園祭）にも参加し、さらに高3夏のオープンキャンパスではカッコいい先輩方や温かな先生方との交流が持て、専攻言語・地域別に設けられた相談ブースも好印象でした。他大学にも見学に行きましたが、東京外大の先生方は高校生の私を一人の大人として接してくれたのが心に残ったことや、大学案内に記された国際社会学部で学べる『人権』や『ジェンダー論』に『大学にはこんな学問があるのか!』と興味が湧き、国際社会学部へ行きたいと東京外大の受験を決めました」

千葉　「例年、オープンキャンパスでは生徒さんや親御さんとは印象深い出会いがあるんです。学生と教員の距離がとても近いというのが本学の特徴ですが、それは入学前から始まっているとも言えます。本学では、3年次以降、専門（ゼミ）に分かれて学びますが、専攻地域の先生とのつながりは卒業まで続きます」



千葉 敏之教授

料理店→語劇→留学の3ステップで 地域の言語と文化理解を深める

樽林　「1年生は学ぶことが多く、履修は確かに大変でした。専攻言語を勉強する「語科（東京外大で「専攻」を意味する通称）」の授業では、同じ専攻の仲間たちとの交流があります。外語祭では1年生による料理店はコロナ禍で実施できませんでしたが、2年生でアフリカからの留学生と一緒に英語とスワヒリ語を使って取り組んだ語劇を披露できたことが印象に残っています」

千葉　「学生や留学生がお互いを深く知り合うためのイベントとして、ボート大会のほか、1年生が協力して専攻地域の料理を作り提供する外語祭での料理店があります。地域の料理を協力して作り、販売することで、地域の食文化を通じて学生どうしが一体感を高める機会となっています。また、2年生が専攻言語で上演する語劇は、人前で演技することで「生きた言葉」を身につける素晴らしい機会で、各国大使も訪れる本学の伝統です。1年生での料理店、2年生での語劇を経て、3年時に留学するという、東京外大の歴史が作った“学修メソッド”は、本学ならではの特徴のひとつです」

学生が教員を選ぶ2つ目の居場所は 大学ならではの学びを実感できるゼミ

千葉　「国際社会学部では専門分野として①地域社会研究コース（歴史学、政治学、文化人類学などの学問を通じて世界諸地域を深く学ぶ）、②現代世界論コース（現代世界の根源的な問題の本質を哲学、社会学、教育社会学などの専門から捉える）、③国際関係コース（政治学、国際法や開発経済学といった学問を通じて国際問題の解決法を考える）、の3つのコースがあります。1年時に始まる導入科目を学びながら、深く学びたい専門を選び、2年生の春にゼミを選択します。ここでも教員との出会いが大切で、教員との相性や直感でゼミを決める学生も少なくありません」

樽林　「1・2年次の授業を通して専門分野は現代世界論コースがおもしろいと思い、真島一郎先生との面接で真島ゼミに入ることを決めました。ゼミでは先生の方針で学生が中心となって学び合い、話し合う機会が多いのが特徴で『これが大学だな』と実感しました」

広く奥深い学びを体感できる 世界教養プログラムのアラカルト授業

樽林　「東京外大では1年生から履修できる世界教養プログラムの授業が豊富で、自分の専攻地域／分野の他に、興味のある授業を複数履修することが可能です。私は「ジャーナリズム」や「熱帯医学」、「開発学」などの授業を履修しました。高校生の頃から興味を持っていた吉原（遊郭）に関する、社会史やジェンダー論の授業も受講することができました。印象に残っている授業はたくさんあります。専門の社会学以外の授業も幅広く履修したおかげで卒論も書けました」

千葉　「語学と卒業研究を学びの柱としながら、自分の興味関心や研究テーマに役立つ授業をアラカルトで組み合わせることができます。本学には現在、日本史探究を受験して入学する学生が2～3割ほどいますが、世界史を学びながら、好きな日本史を深められる授業も開かれていますので、楽しみにしてもらえればと思います」

南アフリカへ1年間留学 考えも変わりタフになった

樽林　「3年生の夏から1年間、南アフリカ共和国のステレンボッシュ大学へ留学し、人文社会学を学びました。日本にいるときから『アフリカは実際に行ってみるからこそ、わかることの方が多い』と先生から繰り返し言われたことも留学先の決め手になりました。南アフリカでの生活は、生活環境の違いや、マイノリティとして暮らす難しさもありましたが、行ってよかったです。12の公用語を持つ国で、さまざまな経験や背景を持った学生たちが集っていました。できるだけそこに住む人と話す機会を持って「住めば都」と思い、世界中どこに行っても人と人だから、と考え方も変わりました。大学からは先生方の支援や、奨学金応募などのサポートをいただき、有難かったです」

千葉　「アフリカは、現場経験の豊富な教授陣が多く、力を入れてきた地域の一つです。アフリカ、そしてオセアニアを地域研究としてしっかり学べるのは国際社会学部だけの特色です」

勝者と敗者の二元論にしない 東京外大の歴史が教えてくれたこと

千葉　「本学WEBサイトの学部長メッセージに記した【物事を善と悪、白と黒に二極化しないこと。勝者の歴史に批判の目を向け、敗者の歴史を救い出すこと】というモットーは、私が東京外大で先輩の先生方から学んだ教訓です。植物学者・牧野富太郎が遺した「植物には雑草という草はない」という言葉のように、人に向き合うときには、相手がどういう人かを想像する力が大事であり、共生社会の実現には、まず相手をちゃんと見ることが根幹にあると考えます。移民問題や差別問題などの困難と向き合うとき、その人が経てきたものを含めて想像力をもって相手と関われるのが東京外大生の良さではないでしょうか」

樽林　「私は大学でアフリカについて学びましたが、『なんで日本から遠い文化や言語を勉強するの?』と言われることもありました。真島ゼミのテーマは【自分がいま世界のいかなる場所に立っているかを考える】であり、卒論を書くときにそのことについて考える時間が多かったです。考えの二極化は、その間にいる数多の人々が見えなくなることになりかねません。他者を完全に理解することは難しく、不可能かもしれません。ですが、私はできるだけ自ら近づいて、ふれてみることが大切だと考えます。卒業後はJICA（国際協力機構）に就職します。留学先や、インターンを行ったルワンダ共和国でもJICAの方にお世話になりました。これからも“目の前の人がどんなことを考えているのかを大事にできる人”でありたいです」



樽林 輝奈乃さん

高校生の興味・関心を未来につなぐ 東京外国語大学の学び

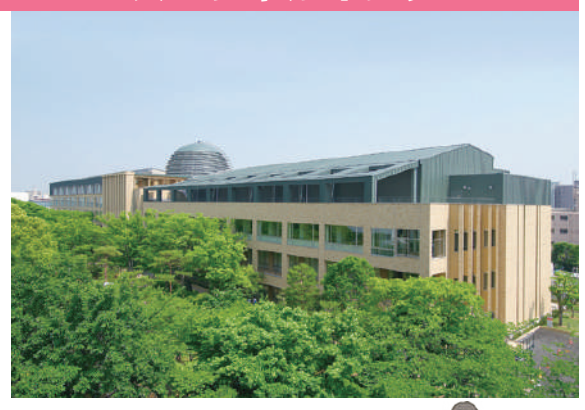
千葉　「世界の国や地域、文化や出来事について、どんな小さなことでも何か気になること、引っかかることがあるという生徒さんに出会ったら、ぜひいちど『東京外国語大学を調べてごらん』と声をかけてあげてください。それが何であるかを学問的に解明することのできる場所が、東京外国語大学です。自分自身で問いに迫っていく情熱の4年間が、ここにはあります」

（2026年3月取材）

グローバル系大学特集　スペシャルインタビュー

海外留学の成果を“可視化”して グローバル人材育成を推進する

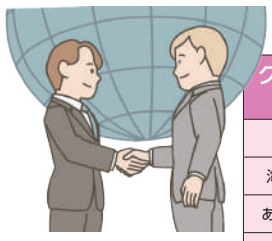
～獨協大学 国際交流センター～



獨協大学は「獨逸学協会学校」創立以来140余年にわたり、世界を舞台に挑んできた外国語教育や国際交流の伝統と歴史が息づいている。「語学の獨協」としてグローバル人材育成に尽力する同大学の留学に関する教育・活動拠点が「国際交流センター」だ。全学部生の海外留学をはじめ来日留学生の受け入れ、さらに学内交流のノウハウを活かし、実りある学生生活とキャリア形成をサポートしている。浅岡千利世所長と小越秀弥課長に伺った。



獨協大学　国際交流センター
浅岡 千利世 所長（写真左）
外国語学部　英語学科教授
小越 秀弥 課長（写真右）



「グローバル人材育成プログラム」

グローバル・リーダーシップ・プログラム		グローバル・シチズンシップ・プログラム
全学部	対象学部	全学部
海外の大学院進学、グローバル企業就業	目的・卒業後の主な進路	多文化共生社会（企業）で暮らすスキル修得
あり（登録時／修了時）、履修言語から選択	語学力の要件	あり（修了時のみ）、 履修言語から選択
3カ月以上	海外経験	4週間以上
外国語で開講する授業必須ほか	グローバル科目の履修	多文化共生、国際人権などの授業必須
報告必須	留学成果報告会の参加	-
あり	修了証の授与	あり



海外留学と留学生・在学生交流の活動拠点

浅岡　本学は「語学の獨協」として、英語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語を専攻できる学修環境です。国際交流センターは留学をはじめ、ボランティアなどの海外経験を希望する学生を支援しています。現在、22の国・地域の74大学（2026年10月現在）と協定を結び、長期留学から短期語学研修、海外インターンシップにも力を入れています。また、日本に来る留学生への生活支援（住居、役所、銀行手続など）により快適に暮らせるよう環境を整え、学内の学修を支援しています。さらに異文化交流やグローバルイベントの企画、海外大学とのオンライン交流会などを実施しています。特に留学から帰国後のキャリア形成については、キャリアセンターとも連携しながらサポートしています。

小越　留学に関しては、多くは秋学期（9月）が起点となりますので、学生はまず国際交流センター窓口で「留学するには、何から始めればいい?」と相談するところからスタートします。成績要件は最も重要ですが一朝一夕にはアップできないので、直近学期の成績を確認して、そこから1年かけて要件を満たすようにアドバイスしています。また外国語運用能力向上のため、ICZ(International Communication Zone)を活用したスコアアップも働きかけています。語学検定試験は受験料が高額のため、本学では受験料の補助を行い、留学希望者の裾野が広がるよう支援をしています。

学生の留学成果を可視化して後輩へ「バトンをつなぐ」

小越　留学は出発前のさまざまな準備と同様に、その成果を可視化することも重要です。語学力については、交換留学生が帰国後に再度検定試験を受け（検定料は全額大学負担）、スコアの伸びを確認し、留学前後に同じ指標で行う調査では、自身の知識、能力やスキルの伸びと課題を認識できるため、今後のキャリア形成にも活用可能です。これらの情報は、翌年以降に留学を検討する後輩たちへの貴重なアドバイスとして参考にしています。

浅岡　後輩たちへの情報共有として、年度に2回、留学成果報告会も実施しています。1週間かけて留学先での経験を伝え、質疑応答を通して、留学に興味を持つきっかけづくりをしています。「後輩に留学のバトンをつなげたい!」という先輩たちの熱い気持ちを受け、報告会に参加する学生が増えているのは、良い傾向と受け止めています。

小越　学生各々が「留学の目的を明確にする」ことも重要です。留学先での学びが「思っていたものと違う、こんなはずじゃなかった」という乖離が起きないよう、国際交流センターでは国際交流委員会の学部学科教員に関与いただき、留学直前学期の履修登録相談を実施しています。学生と面談し、出発までの期間に必要な科目が履修できているか、事前に履修すべき科目の指導などを行っており、学生の気づきやモチベーションアップにもつながっています。また交換留学生は、留学の事前・事後研修の受講も制度として義務付けており、学生全員が異文化理解やメンタルケアなどについて、教員からレクチャーを受けています。

学部横断型・世界での活躍や多文化共生のための「グローバル人材育成プログラム」新設

浅岡　2027年4月より「グローバル人材育成プログラム」をスタートします。新しい時代の変化に応じた、外国語教育とグローバル教育のための学部横断型プログラムです。留学などの海外経験を通して、語学力だけでなくより高度な知識やスキルを身に付けた学生を育て、その裾野を広げたいと考えています。学部を横断したグローバル社会を理解する科目の履修と海外体験が必須で、語学を学ぶだけでなく、海外経験や多様な人びととの共同学修を通して、専門分野の学びと結び付けて将来的に社会で活かすことを目的としています。海外の大学院へ進学し、グローバル企業を目指す「グローバル・リーダーシップ・プログラム」と、日本の地域社会や企業で移民など多様な背景をもつ人々とともに暮らすためのスキルを修得する「グローバル・シチズンシップ・プログラム」の2コースを設置します。（概要の比較は別表参照）

小越　本学における海外留学は外国語学部や国際教養学部生が多いのですが、本プログラムによって経済学部や法学部の学生にも海外経験などの機会を得て、グローバルに活躍するキャリア形成に繋げてもらえればと願っています。

留学の学内奨学金を拡充 学外情報も集約して計画的活用を支援

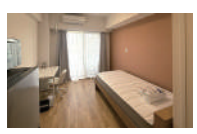
浅岡　世界的な物価高や円安の影響で、留学費用のみならず渡航費や現地での生活費工面も大きな課題です。経済的な理由で留学を断念することのないように国際交流センターで情報を得て、準備を万全にすることが大切です。本学では独自の長期留学者対象の奨学金（国際奨学金、安川グローバルチャレンジ奨学金など）を拡充し、併給可能な学外奨学金の情報も提供しています。「交換留学」と「認定留学」では受給可能な奨学金の金額も異なりますので、事前に計画を立てて奨学金を利用してもらえればと思います。

小越　他大学は留学中の授業料を在籍大学と留学先に二重に支払うケースも見受けられますが、本学ではいずれか一方のみに授業料を支払います。さらに本学国際奨学金の増額や、JASSO（日本学生支援機構）の奨学金との併給も可能にするなど、経済的支援にも取り組んでいます。

浅岡　英国やアメリカだけでなく、英語で留学できる欧州やアジアの大学もあります。「英語留学だから英語圏へ行く」発想ではなく、「英語で留学できる大学はどこか」と計画を立てれば、英米よりも物価の安い地域の大学を選択することも可能です。

留学生と在学生の交流を推進する 国際宿舎やバディ制度

浅岡　本年4月に国際交流宿舎「Dokkyo Global House」をオープンしました。従来の宿舎（3人でルームシェアするUR住宅）に加え、企業の独身寮をリフォームして借り上げ、約30室の個室に共用キッチン、ラウンジ、ランドリールームを備えています（写真参照）。







大学から徒歩10分に位置する海外協定校からの留学生対象の宿舎ですが、一部は本学学生も利用できますので、語学力向上や多文化理解の場としても活用してもらえればと考えています。

小越　海外に行けなくても学内で国際交流する制度として「国際交流サポートスタッフ」（留学生バディ）があります。留学生の来日前からメールで連絡を取り、生活面を支援します。お互いの言語を通して、理解し合うことでコミュニケーション力を高める機会にもなります。秋学期は50名の募集に対し、80名の応募がありました。その他、留学生と行くバスツアーなどさまざまなグローバルイベントも企画し、学内での国際交流活動の場を提供しています。

浅岡　本学志望の高校生には「語学の獨協」のその先を目指してほしいです。入学したら早めに国際交流センターに来てイベントや報告会等に参加し、留学の計画を立ててください。さまざまな学部学科の学生に活用してもらいたいと希望しています。

グローバル系大学特集　副学長メッセージ

激動の時代に進化するグローバル教育

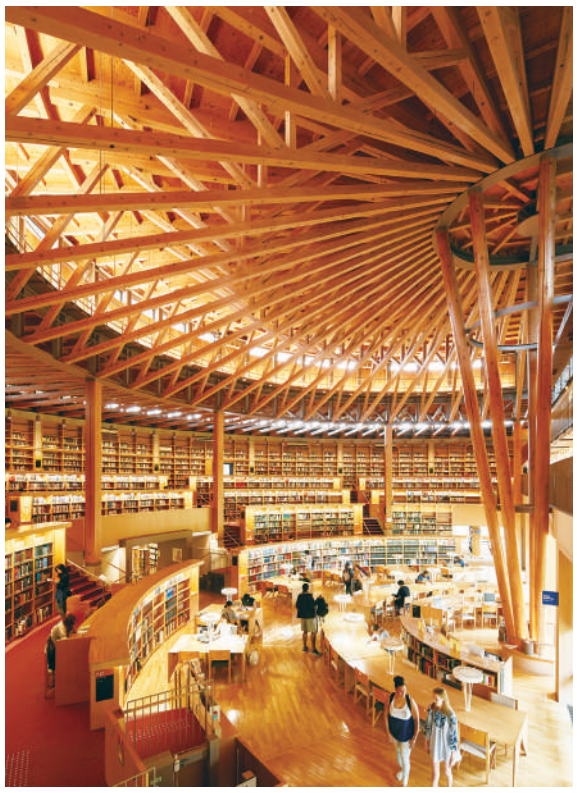
～国際教養大学～

国際教養大学
副学長　教授
熊谷　嘉隆



国際教養大学が考えるグローバル教育とは

国際教養大学（AIU）は、「グローバルリーダーの育成」を大学のミッションとして掲げています。本学が考えるグローバルリーダーとは、単に高度な外国語運用能力を持つ人材ではありません。多角的な分析力や学際的な思考力といった「知力」に加え、厳しい局面を乗り越える胆力、忍耐力、誠実さ、責任感といった「人格力」を兼ね備えた人材です。そうした人間的魅力と真の実力を備え、世界中のあらゆる現場で活躍できる人材を輩出するため、本学では徹底した少人数教育、すべての授業を英語で行う教育体制、1年間の海外留学を必修化しています。これらを通じ、学生たちは異文化や多様な価値観を肌で感じながら、大きな人間的成長を遂げていきます。



2021年4月からは、これまで培ってきた国際教養教育をさらに進化させるため、「応用国際教養教育（AILA:Applied International Liberal Arts）」という教育手法のもと、カリキュラムを大規模に再編しました。国際教養学科には「グローバル・ビジネス」「グローバル・スタディズ」「グローバル・コネクティビティ」という3つの領域が設けられています。「グローバル・ビジネス領域」では、ビジネスや経済学の専門知識を学びます。「グローバル・スタディズ領域」では、国際社会、政治学、国際関係論に加え、現代の最重要課題であるサステナビリティ（持続可能性）分野の科目を拡充しました。そして「グローバル・コネクティビティ領域」は、「人、文化とコミュニケーション」および「科学技術と社会創造」の2分野から構成されています。文化・文学・哲学といった人文学的な視点と、AIや最先端のテクノロジーを掛け合わせて学ぶことで、これからの技術と人間社会の望ましいあり方を探求し、新たな時代を創り出す力を養います。

変わらぬ教育の核心部分と弾力的なカリキュラム運営

現在、世界は地政学的な不確実性と絶え間ない変化の渦中にあります。ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナの衝突、アメリカとイランをはじめとする周辺地域の情勢など、緊迫する社会状況に加え、AIをはじめとする最先端技術と人間社会とのつき合い方、さらには気候変動やエネルギー問題といった地球規模の課題が山積しています。こうした激動の時代において、世界各地から集まる多種多様なバックグラウンドを持つ学生たちが形成する「多文化共生空間」ではルームメイトとの生活におけるルール作りなど、育った環境や価値観が異なる人とのぶつかり合いや協調の中でしか得られない貴重な学びがあります。1年次の全寮制生活や1年間の海外留学といったカリキュラムの核心部分は、開学以来変わることなく徹底されてきた教育の土台としつつ、激動する外部環境に弾力的に対応するハード・ソフト面における教育環境をアプデートしつつ、世界を舞台に活躍することを目指す皆さんの挑戦を、心から待っています。

予告
高校生・高校教員・保護者対象
グローバル系/外国語・国際系
大学フェア2027



大学別の最新入試やグローバル教育の情報がゲットできます。
また、個別の相談に丁寧に対応いたします。

2027年 5/29(土) 12:30▼15:30
大阪 梅田会場
グランフロント大阪 北館タワー
大阪市北区大深町3-1

2027年 5/30(日) 12:00▼15:30
東京 新宿会場
新宿NSビル NSスカイカンファレンス
新宿区西新宿2-4-1

2027年 7/21(水) 13:00▼17:00
福岡 福岡会場
福岡朝日ビル
福岡市博多区博多駅前2-1-1

最新の情報はさんぽう進学ネットでご確認ください。

専門職大学特集

経営・国際系や情報・工学系など学びの多様性が広がり ビジネスの即戦力育成へ期待

専門職大学は全国に23校（19大学、3短期大学、1学科。2026年4月現在）に拡大し、近年は起業をはじめビジネス界の即戦力人材を育成する“最短ルート”としても注目されている。制度スタートから7年、改めて「専門職大学」の学びの特徴を挙げてみたい。

特徴① 少人数教育で経験豊かな実務家から学ぶ

同時に授業を受ける学生数は40名以下とし、大教場での講義はない。
専任教員のうち4割以上は、専攻分野において5年以上の実務経験と高度な実務能力を持つ（実務家教員）で構成。うち半数は研究実績を有する教員とされる。

特徴② 企業や地域と連携したカリキュラム

産業界や地域社会と連携した授業科目を編成。各大学に「教育課程連携協議会」が設置されており、関連企業が求める人材を育成するための要素について、協議を重ねている。

特徴③ 大学独自の履修科目がある

●臨地実務実習

キャンパスを離れ、職業分野の企業・団体で長期（1カ月以上）の実務実習が必修。従来のインターンシップとは異なり、実習先の評価と担当教授の指導を経て単位認定される。

●展開科目

専攻する職業分野に関連する他分野を学ぶ。応用力を育み、職業現場において創造的な役割を果たすために必要な能力を修得する。

特徴④ 卒業時に「学士」授与

専門職大学は卒業時に「学士（専門職）」（短期大学は短期大学士（専門職））が授与される。学位は大学・短期大学と同等。



総合型選抜	出願期間	試験日
E 日程	12/11（金）～2/4（木）	2/13（土）
F 日程	2/5（金）～2/25（木）	3/7(日)

一般選抜	出願期間	試験日
A 日程	12/11（金）～1/21（木）	1/30(土)
B 日程	1/22（金）～2/10（水）	2/21(日)
C 日程	2/11（木）～2/25（木）	3/7(日)

学校法人電子学園
iU 情報経営イノベーション専門職大学
〒131-0044 東京都墨田区文花 1-18-13
TEL : 03-5655-1551　MAIL : ad@i-u.ac.jp
詳細・資料請求はこちら▶

専門職大学特集





グローバルBiz専門職大学

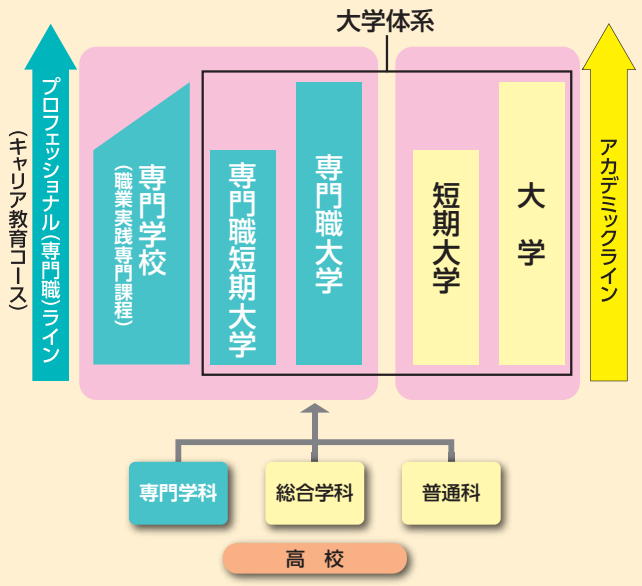
経営系・国際系 グローバルビジネス学部

〒210-0007神奈川県川崎市川崎区駅前本町22-1
TEL 044-589-8777 https://gpu.ac.jp

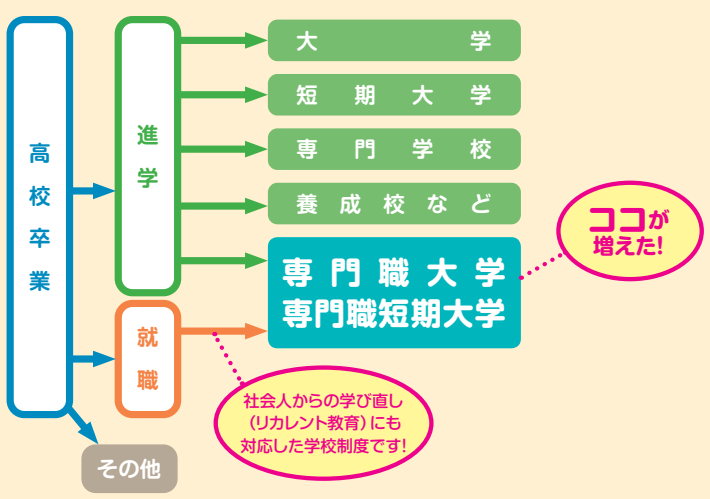
総合型選抜

日程	出願期間	試験日	合格発表	入学手続締切日
E日程	11/21(土)～12/11(金)	12/19(土)	12/25(金)	1/29(金)
F日程	12/12(土)～1/8(金)	1/16(土)	1/22(金)	2/19(金)
G日程	1/9(土)～2/12(金)	2/20(土)	2/26(金)	3/12(金)
H日程	2/13(土)～3/17(水)	3/23(火)	3/26(金)	3/31(水)

高度な専門技術に加え、理論にも裏付けされた実践力を兼ね備えた質の高い職業人を養成する専門職大学



専門職のリーダーなど「質の高い職業人養成」がポイント



従来の大学では、学問研究や教育、あるいは教養に力を入れているのに対し、専門職大学では、専任教員の4割以上が企業等での実務経験者であること、授業の3分の1は実習・実技とすることなどが義務付けられている。従来の大学に比べ、実習を主体とした実践的な教育内容となっている。
将来は企業などで専門職のリーダーとしての活躍が期待され、最先端の技術・知識を身につけることができる専門職大学は「質の高い職業人」を目指せるだろう。

横浜で「看護職」「保育職」を専門的に学べる大学



看護学部は、1年次から医療の現場に触れる実習を実施。基礎能力を修得し、その後段階的にステップアップしていくことで、患者の状況に応じた看護のあり方や、医療・看護のしくみ、医療チームの一員としての実践能力の向上をはかります。
こども教育学部は、より専門的保育技術を修得するために、多くの課外活動に力を入れています。



令和9年度入試日程

【看護学部】

区分	出願登録期間	試験日	合格発表日
一般選抜Ⅰ期	令和9年1月7日(木)～1月29日(金) 15:00まで	令和9年 2月6日(土)	令和9年2月12日(金) ■入学手続 2月13日(土)～2月22日(月)
一般選抜Ⅱ期	令和9年2月9日(火)～2月22日(月) 15:00まで	令和9年 2月27日(土)	令和9年3月5日(金) ■入学手続 3月6日(土)～3月16日(火)
総合型選抜Ⅲ期	令和8年12月1日(火)～12月14日(月) 15:00まで	令和8年 12月19日(土)	令和8年12月24日(木) ■入学手続 12月25日(金)～令和9年1月18日(月)

【こども教育学部】

区分	出願登録期間	試験日	合格発表日
一般選抜Ⅰ期	令和9年1月7日(木)～1月29日(金) 15:00まで	令和9年 2月6日(土)	令和9年2月12日(金) ■入学手続 2月13日(土)～2月22日(月)
一般選抜Ⅱ期	令和9年2月9日(火)～2月22日(月) 15:00まで	令和9年 2月27日(土)	令和9年3月5日(金) ■入学手続 3月6日(土)～3月16日(火)
総合型選抜Ⅲ期	令和8年12月1日(火)～12月14日(月) 15:00まで	令和8年 12月19日(土)	令和8年12月24日(木) ■入学手続 12月25日(金)～令和9年1月18日(月)
総合型選抜Ⅳ期	令和9年2月9日(火)～2月22日(月) 15:00まで	令和9年 2月27日(土)	令和9年3月5日(金) ■入学手続 3月6日(土)～3月16日(火)
総合型選抜Ⅴ期	令和9年3月1日(月)～3月11日(木) 15:00まで	令和9年 3月17日(水)	令和9年3月19日(金) ■入学手続 3月20日(土)～3月26日(金)
学校推薦型Ⅱ期	令和8年12月1日(火)～12月14日(月) 15:00まで	令和8年 12月19日(土)	令和8年12月24日(木) ■入学手続 12月25日(金)～令和9年1月18日(月)

横浜創英大学

〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町１番地
☎045-922-6105
URL https://www.soei.ac.jp/

最新研究特集　東京工科大学

自動運転バスの実証運行開始！ 地元・八王子市と協働で一歩前進

～東京工科大学～



10月3日、東京工科大学は八王子市と協働で自動運転バスの実証運行を開始した。
今年3月に自動運転スクールバスの実証実験を実施し、7月には八王子市と自動運転バス導入に向けた「自動運転社会実装推進事業コンソーシアム協定」を締結。その際発表された「2026年10月からの運行開始」が実現した。コースは八王子駅南口と「桑都の杜」を結ぶルートで、今後はさらなる延伸をめざすという。
これに先立ち、9月30日に開催された出発式ならびにプレス試乗会の模様、さらに同大学が研究を進める「未来型モビリティ」の動向について、未来モビリティ研究センター長の須田義大教授に伺った。

自動運転（レベル2）での社会実装へ 出発式では八王子市長や地元議員らが来場しテープカット

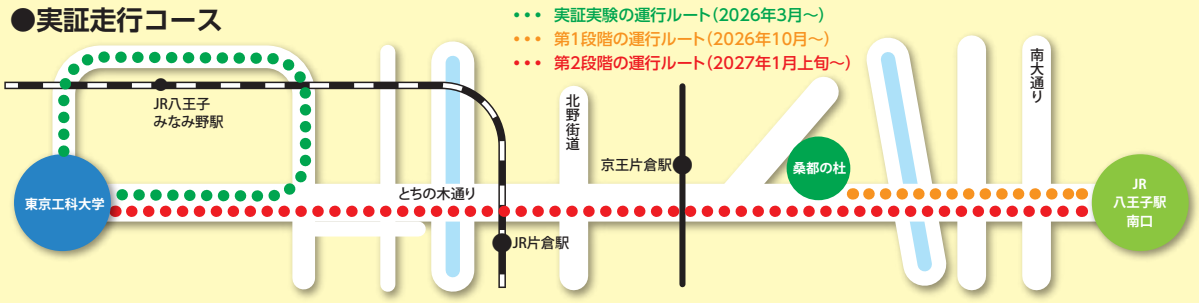


出発式では初宿和夫八王子市長、萩生田光一衆議院議員、香川豊学長、千葉茂片柳学園理事長が挨拶し、実証運行開始のテープカットを行った。八王子市では近年、バス運転士不足による減便が課題となっている。本事業は国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」の採択を受けて実施。近年、全国で多くのバス路線が廃止されたが、自動運転バスはドライバー不足への対応や地域公共交通の維持、高齢者の移動支援などが期待されている。

実証運行は10月3日から12月25日までの原則木曜～日曜・祝日に実施。走行区間は、八王子市が開設した複合施設「桑都の杜（そうとのもり）」と八王子駅南口の区間となる。一般利用は無料で1日10往復程度運行する。さらに2027年1月からは期間限定で、JR片倉駅や東京工科大学の八王子キャンパスまで走行区間を延伸する予定だ。



●実証走行コース



東京工科大学未来モビリティ研究センター長 須田義大教授に聞く　「自動運転バスの近未来」

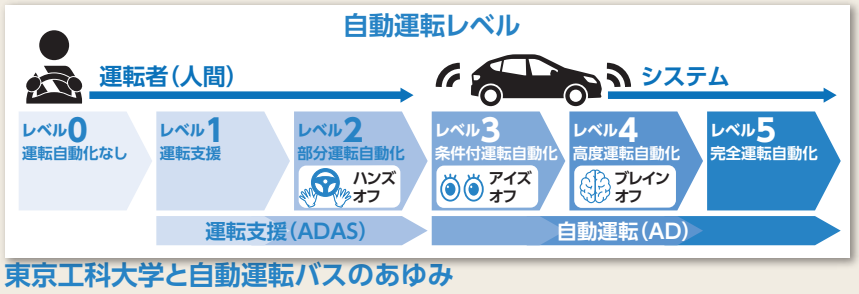
ーAIスーパーコンピュータ「青嵐」の活用で実用化へ加速ー



須田義大（すだ・よしひろ）／東京工科大学片柳研究所教授、未来モビリティ研究センター長。東京大学名誉教授。東京大学工学部機械工学科卒、同大学大学院博士課程（産業機械工学）修了。法政大学工学部助教授、カナダ・クイーンズ大学客員助教授、東京大学生産技術研究所教授、同大学モビリティ・イノベーション連携研究機構長などを経て、2025年から現職。

今回の試乗会での乗り心地は非常に良かったです。ただ、現在はカメラが精緻に感知して急ブレーキが起きることもありますので、改善していきたいですね。出発式でも申し上げましたが、将来を見据えて失敗を恐れずに試行していきたいと思います。

スクールバスの実証実験は、運転者が介入する自動運転レベル2から、特定区間をシステムが完全に制御するレベル4まで上げる計画で進めています。シミュレーションデータを蓄積させるため、本学が導入したAIスーパーコンピュータ「青嵐（SEIRAN）」でさまざまな条件を想定してシミュレート解析を行います。青嵐はAI開発に特化しているので、仮想的なシミュレーションも可能です。



東京工科大学と自動運転バスのあゆみ

東京工科大学は2027年度にレベル4で全走行区間での実装を目指している。レベル4では特定の場所や天候、速度等の条件下ではあるが、完全にシステムの管理下で走行可能で、自動運転移行時に運転者の介入も不要となる。

同大学では未来モビリティ研究センターを2024年に設立。モビリティ技術が人々の可能性を広げる手助けになるという考えのもと、自動運転をはじめとした研究に力を注いできた。2025年4月には、制御動力学の専門家として当時東京大学の教授だった須田義大氏を招聘した。教授は自動運転による隊列走行を安全に実施するには必須となる技術の一つ「CACC隊列走行システム」の開発者である。これは前後車両の走行情報をリアルタイムで共有し、車間距離を保つ技術だ。東京大学教授時代にも千葉県柏市と連携し自動運転バスの実証実験を実施したほか、昨年は、奥日光エリアで実施された自動運転バスの大規模実証実験にも参画した。東京工科大学では2026年3月に八王子キャンパス―JR八王子みなみ野駅間での実証実験に引き続き、今般の八王子市とのコンソーシアムによる実証運行と着実に前進しており、公共交通支援のモデルとして注目が集まっている。

東京工科大学と「未来型モビリティ」開発 EVレーシングカーとは

須田教授は自動運転の他にも「未来型モビリティ」と呼ばれる次世代型移動手段の研究開発をしている。その一環として、東京工科大学の学生有志を中心に行われているプログラム『EVプロジェクト』への指導も行っている。フォーミュラスタイルのレーシングカーをEVで走らせるのが目的だ。モーターや電気系統は電子工学科の学生、車体フレームは機械工学科の学生など、各学生が専門分野を生かして製作を担当している。EVプロジェクトの今後や高校生に向けて、須田教授に伺った。

「EVレーシングカーや自動運転は大学の取り組みとして、学生がいかに関われるかが重要です。さまざまな学生が積極的に関われるようにしていきたいですね。

高校生には理科系に興味を持って貰いたいですし、AIは頼るものではなく使いこなすものだと認識していただきたい。フィジカルAIのように、いかに現実の技術に落とし込めるかが鍵となります」

東京工科大学 TOKYO UNIVERSITY OF TECHNOLOGY
八王子キャンパス　コンピュータサイエンス学部/メディア学部/工学部 [機械工学科/電気電子工学科/応用化学科]/応用生物学部
〒192-0982　東京都八王子市片倉町1404-1　TEL.0120-444-903
蒲田キャンパス　デザイン学部/医療保健学部（看護学科/臨床工学科/ リハビリテーション学科[理学療法学専攻/作業療法学専攻/言語聴覚学専攻]/臨床検査学科）
〒144-8535　東京都大田区西蒲田5-23-22　TEL.0120-444-925
URL　https://www.teu.ac.jp/

2028年4月には、蒲田キャンパスにデジタルエンターテインメント学部（仮称）の設置を予定しています。※設置構想中。計画内容は変更になる場合があります。

注目の学部・学科特集　学部長メッセージ

コスメをつくる学びを将来の仕事へ 薬学の専門性から広がる二つのキャリア

～第一薬科大学～



4年制「薬科学科」の「コスメ&ヘルスケアマネジメントコース」では、化粧品の成分や処方だけでなく、品質管理、薬機法、消費者理解、ブランド設計、販売後の評価までを学びます。学生が自ら見いだした肌課題をテーマに、企業や皮膚科医等の助言を受けながら商品企画と試作に取り組み、優れた企画を限定販売へつなげる教育を計画しています。この学びは、化粧品メーカーやOEM企業、ヘルスケア分野、流通・小売、データ関連分野、研究職などへの進路を考える土台になります。また、薬剤師国家資格を目指す6年制の「漢方薬学科」は、日本漢方と西洋薬の双方を理解する人材育成を明確にするため、2027年4月から「日本漢方薬学科」へ名称変更する予定です（文部科学省へ届出中）。



第一薬科大学　薬学部長　**中原 広道**教授
博士（薬学）

きめ細かな指導で、実践力の高い薬剤師へ。

本学は1960年に創立し、これまでにおよそ1万5千名の卒業生を輩出してきました。学習支援の教員や施設も充実しており、少人数制で学生一人ひとりにきめ細かい指導ができるのが本学の強み。薬学科の目標は薬の専門家として医療の各分野に対応できる知識・技能、態度、そして豊かな人間性や倫理観を備えた実践能力の高い薬剤師の育成です。仲間と共に学び、未来の自分を切り拓いていきましょう。

理科や化学の好きを未来のキャリアへ 生徒の想いと時代の変化に応える進路

高校の進路指導の現場において、化学や生物への興味を基礎としながら、「将来、化粧品の開発に携わりたい」「人の美や健康に貢献する仕事がしたい」と願う生徒様から相談を受ける機会が増えています。一方で、医療や美容を取り巻く社会環境は急速に高度化しており、単なる科学的な基礎知識だけでなく、現場の多様な課題に対応できる実践的なアプローチが強く求められる時代となりました。

第一薬科大学では、そうした生徒様の純粋な想いを将来の確実なキャリアへと昇華させるため、薬学の専門性を軸とした2つの先端的な教育アプローチを展開しています。4年制の薬科学科「コスメ&ヘルスケアマネジメントコース」と、6年制の「日本漢方薬学科（2027年4月改称予定）」を通じて、次世代の医療と美容を担う高度な専門人材を育成しています。

成分や処方から限定販売までを一気通貫 体験型で磨くコスメビジネスの即戦力

4年制の薬科学科に設置されている「コスメ&ヘルスケアマネジメントコース」は、単に実験室で化学実験や処方を学ぶだけのカリキュラムではありません。化粧品の成分や処方技術はもちろん、品質管理、薬機法をはじめとする関連法規、さらには消費者理解、ブランド設計、販売後の評価手法に至るまで、化粧品ビジネスに必要なすべての工程を一気通貫で網羅的に学習します。

本コースの最大の特徴は、非常に実践的な「ものづくり教育」にあります。学生自身が日常で見いだした肌の悩みや課題をテーマに設定し、提携企業や皮膚科医などの専門家からアドバイスを受けながら商品企画と実際の試作に取り組みます。

さらに、特に優れた企画については実際に限定販売へとつなげる体験型プログラムを計画しており、学生のうちから市場を意識した本格的なプロダクト開発の全容を体験できます。

薬局やドラッグストアのコスメ部門で 生かす専門性 メーカーから医療に近い販売現場まで 広がる進路

このような文理融合型の実践教育は、コスメを起点として、学生の将来の選択肢を幅広い分野へ広げます。本コースの大きな特色は、化粧品メーカーだけでなく、薬局やドラッグストアの化粧品・ヘルスケア部門も卒業後の進路として想定していることです。

これらの現場では、化粧品の使用感やトレンドに関する知識に加え、皮膚の構造、成分の働き、安全性、医薬品との関係を踏まえて商品を理解する力が求められます。薬学を基盤としてコスメを学ぶ本コースの卒業生は、薬剤師などの医療専門職と連携しながら、利用者の肌の悩みや健康状態、生活背景を意識した商品提案に携わることができます。

そのほか、化粧品メーカーやOEM企業における商品企画、研究・製品開発、品質管理、安全性評価、薬事、マーケティングのほか、流通・小売・EC、ヘルスケア関連企業、消費者ニーズを分析するデータ関連分野なども想定される進路です。薬学部だからこそ、コスメを「科学」し、医療ヘルスケアまで幅広く学べる。この独自の学びが、化粧品業界に留まらない多彩なキャリアにつながります。

西洋薬と日本漢方の両面を体系的に修得 証に基づく適切な処方を提案できる薬剤師

現在、日本の医師の約9割が日常診療で漢方薬を処方しており、薬剤師にも、患者の体質や症状を捉える「証」の考え方、処方意図、副作用、西洋薬との併用について理解し、適切な薬学的支援を行う力が求められています。

本学科では、日本で独自に発展した漢方医学の考え方と、漢方薬理学に基づく科学的な理解を体系的に学びます。「証」を踏まえて処方意図を理解し、医師への情報提供や処方提案、患者への服薬指導を行うことのできる、臨床現場で信頼される薬剤師を育成します。

生徒の情熱と可能性を拓く先端の学び 第一薬科大学が提案する新たなキャリア

第一薬科大学が進める二つの学びは、コスメやヘルスケアに関心を持つ生徒、また、薬剤師として患者一人ひとりに向き合いたい生徒に、新たな進路の可能性を示すものです。

4年制薬科学科の「コスメ&ヘルスケアマネジメントコース」は、文系からも受験することができます。高校で文系を選択した生徒も、入学後に化学や生物などの基礎を学びながら、化粧品の成分や皮膚科学、製品開発に加え、商品企画、マーケティング、データ活用などの知識を身につけることができます。「コスメが好き」という関心を、科学的な専門性と将来の仕事へつなげる文理融合型の学びです。

一方、6年制の「日本漢方薬学科」では、西洋薬と日本漢方の双方を体系的に学び、患者の体質や状態を踏まえた薬学的支援のできる薬剤師を目指します。二つの学びはいずれも薬学を基盤としながら、生徒それぞれの興味や得意分野を生かし、将来の進路へつなげる教育です。進路指導の際には、理系の生徒だけでなく、コスメやヘルスケアに関心を持つ文系の生徒にも、本学の「コスメ&ヘルスケアマネジメントコース」を選択肢の一つとしてご紹介いただければ幸いです。





DAIICHI UNIVERSITY OF PHARMACY
第一薬科大学
DAIICHI UNIVERSITY OF PHARMACY
〒815-8511　福岡市南区玉川町22番1号
電話番号:092-541-0161(薬学部)

日本大学 関泰一郎新理事長、大貫進一郎学長が登壇しメディア懇談会開催

9月9日、日本大学メディア懇談会が東京・市ヶ谷の日本大学桜門会館で開催された。冒頭では6月に就任した関泰一郎新理事長、2期目となる大貫進一郎学長が登壇して挨拶を述べた（写真）。関理事長は長きにわたり生物資源科学部で研究ならびに教育に尽力し、学部長を経て就任している。今後は関理事長が大学運営を、大貫学長が教育全般を指揮するという。研究関係プレゼンテーションでは芸術学部デザイン学科長瀬教授の学部横断型「日本大学災害研究ソサエティ」の取り組みと、世界初の「核融合発電キャンパス」を目指す理工学部浅井教授のプレゼンテーションが行われた。続いて学務関係では「全学共通教育カリキュラム」の説明や次年度の入学者選抜の変更点の概要、さらに「日本大学自主創造プロジェクト」として学生の研究取り組み2例（化粧品開発、水道橋キャンパスでの養蜂）が紹介された。


▲関泰一郎新理事長


▲大貫進一郎学長

神田外語大学 語学を伸ばし経営を学ぶ新学部「国際経営学部（仮称）」2028年度設置構想中

異文化理解と国際社会に貢献する人材育成に注力してきた神田外語大学が、2028年度に国際経営学部（仮称）設置を構想中だ。語学をはじめ、グローバルなビジネスに不可欠なスキルを実践的に学び、外国語教育をコアとしつつ、ビジネス的な知識と発想、AI・データ活用のスキルなどを学ぶ。既存の外国語学部よりも、ビジネス面に重きを置いた学部となる。神田外語大学のコアバリューである英語教育を基礎に、ビジネス視点での学びを強化する。これまでにも「ビジネス英語」という科目はあったが、英語学習の枠組みにとどまっていたため、新学部では語学基礎やビジネス英語を日本語で学ぶクラスから始め、英語でビジネスを学ぶクラスまで徐々にステップアップを目指す。英語とビジネスを別々に学ぶのではなく、ネイティブスピーカーが使うビジネス資料やトピックを使い、ビジネス思考やプレゼンスキルと英語が一体となって身につくようにしていくという。授業内容について学生と卒業生に『こんな授業があれば良かった』と思うことをヒアリングしたところ、『もっとビジネスについて学びたかった』『英語でビジネスを学ぶクラスがほしかった』という声が聞かれ、新学部のカリキュラムには、学生たちの声が反映される予定だ。（参照：大学WEBサイトほか）

国際基督教大学（ICU） 一都三県外の一般選抜合格者に「対象者全員の給付（学費減免）確約」2大給付型奨学金を整備

ICUは入試への出願前から受験生・保護者の経済的不安を解消し、首都圏以外からの受験生および経済的配慮を必要とする受験生が安心してリベラルアーツ教育への挑戦の一歩を踏み出せるよう、その足元に寄り添う奨学金環境を整備した。2027年度入学者選抜より、一都三県以外の高校生を対象とした「ICU Cherry Blossom 奨学金（入学前予約採用型給付奨学金）」の一般選抜における採用枠（人数制限）を撤廃し、条件を満たす合格者全員へ給付する。すでに一般選抜合格者全員を採用対象としている「ICU トーチリレーHigh Endeavor 奨学金」と併せ、給付奨学金において条件を満たす奨学金申請者が一般選抜で合格すれば、「必ず奨学金が給付される」確約体制が整った。 条件を満たす一般選抜合格者は「全員」奨学金給付が確約され、これまでの奨学金制度にあった「合格しても奨学金がもらえるかどうかわからない」という不安を解消。条件（世帯収入・高校所在地など）を満たした受験生が一般選抜で合格した場合、対象者全員に給付（学費減免）される。しかも「後から給付（返還）」ではなく、入学手続き時に入学金および第一学期授業料の払い込みが発生しない仕組みとなり、手続き時のまとまった資金準備の負担がなくなった。

（参照：大学WEBサイトほか）

清泉女子大学 ふるさと納税「しながわ団体応援寄附」で学生の学びを応援

清泉女子大学は2025年度から、所在する東京・品川区のふるさと納税制度「しながわ団体応援寄附」を通じた寄付を受け付けている。制度開始から約1年が経過し、昨年度寄せられた寄付金は図書館資料の充実に使われるなど、学生の学びや多様な活動を支える取り組みに活用されている。この制度では、納税者から品川区に寄せられた寄付金が、寄付金額の7割を上限として寄付者の指定する学校法人に支援金として交付される。ふるさと納税の仕組みを活用することで、卒業生や保護者、地域住民をはじめ、清泉女子大学の教育活動に関心を寄せる人々が、学生の学びを支援することができる。

同大学ではより豊かな学びの環境づくりのため、昨年度寄せられた寄付金を図書館資料の充実に活用。こうした取り組みを通じて、学生たちは授業で得た知識を実践につなげ、新たな経験や挑戦を重ねている。

（参照：品川区WEBサイト、大学WEBほか）

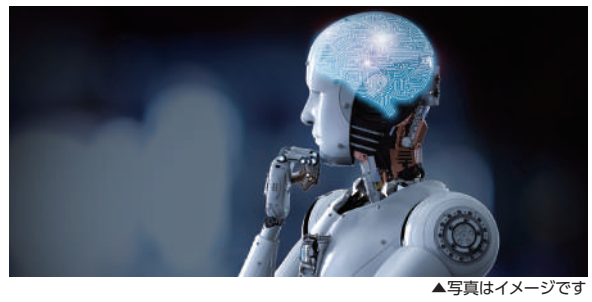
三条市立大学 （株）スノーピーク寄附講座の選抜生がビジネスプランをプレゼンテーション

7月30日、三条市立大学のイノベーションを創出するビジネスリーダー養成講座「IBLD（Innovative Business Leader Development Course）」の選抜生8名が、（株）スノーピーク本社（新潟県三条市）にてプレゼンテーションを行った。IBLDは、株式会社スノーピークの寄附により開設された講座。次世代のビジネスリーダーの育成を目的としており、3・4年生を対象に選抜された学生が受講し、3年生は今年4月からの成果として、4年生は2年間のプログラムの集大成として、それぞれのビジネスプランを練り上げた。当日8名の学生は、教員およびスノーピーク社員メンターによる指導のもと練り上げたビジネスプランを、同社の山井太代表取締役会長執行役員CEO兼CCOとアハメド シャハリアル学長に対してプレゼンテーションした。本寄付講座は、スノーピークが自然志向のライフバリューを基軸としてマーケットに起こしたイノベーションや、様々な局面における経営判断をトップマネジメントとしてどのように行ったかなどを、山井氏から直接学ぶことができる貴重な機会となっている。また、学長やビジネスの第一線での経験豊富な教員陣からも、未来のビジネスリーダーになるために必要な思考法や組織論、グローバルで活躍するための実践的な英語などの幅広い知識を学んでいる。（参照：大学WEBサイトほか）

藤田医科大学 2027年4月医学部「医工共創学科」新設 医工連携・進学しやすい学費設定に

藤田医科大学医学部は、2027年4月に「医工共創学科」を新設する（入学定員30名）。AIをはじめとするテクノロジーの発展により医療が大きく変わる中、この変化に対応できる新たな「医工人材」の育成を目指すという。特筆すべきは初年度の学費は学費減額制度の適用により、93万円と国公立大学並みに設定されている（別途委託徴収金、他費用あり）。未来の医療を担う人材を育成するため、学生が学びやすい水準にした。学部4年間に加え、大学院（修士課程）2年間の学修につながる教育課程も整備。大学や大学病院に蓄積された実際の医療データを活用し、実践的な学びを行う。医学と工学という未来医療の両輪となる知識を基盤に、情報科学を駆使して課題を分析し、解決策を設計・社会実装できる医工学のスペシャリストの育成を目指す。

（参照：大学WEBサイトほか）


▲写真はイメージです

テンプル大学ジャパン 学部生の数が4,000名を突破し過去最高 東京、京都、川崎の3拠点を展開

テンプル大学ジャパン（以下TUJ）は2026年秋学期において、学部生数が初めて4,000名を突破し、過去最高を更新した。TUJは、2026年9月に発表されたU.S.ニューズ&ワールド・レポートの大学ランキングで全米公立大学トップ50にランクインしたテンプル大学の日本キャンパス。日本国内では東京、京都、川崎の3拠点を展開しており、学生は希望する拠点で学びながら、米国テンプル大学から直接学位を取得することができる。学部生数は2020年秋学期の1,254人から3倍以上に増加した。直近では9月4日、川崎市に延べ床面積7,000平方メートルの学術棟「ヒルサイドセンター」を正式に開設。同センターは、世田谷区にあるシティキャンパスからのアクセスも容易で、東京都市圏におけるTUJの2番目の主要拠点となる。2025年1月にTUJ京都が開校してから2年足らずで新拠点の開設となった。

（参照：大学WEBサイトほか）

環太平洋大学 2028年4月農学部を設置構想中 北海道2年×3拠点から選択のキャンパスで学ぶ

岡山県などにキャンパスを持つ環太平洋大学が、2028年4月に農学部を北海道深川市に新設する計画を発表し、運営法人の学校法人創志学園と深川市が連携協定を締結した。地域課題の解決や人材育成などにおいて連携するという。入学後の2年間は北海道で基礎知識と実践経験を積み、後半はさらに学びたい農業ビジネス分野から北海道、東京、岡山の各キャンパスを選択する。

（参照：北海道放送、大学WEBサイトほか）

探究学習特集　受賞者インタビュー①

生まれ持った特性で取り残されない社会を作る 音楽×AIで学習の不平等に挑む

～佼成学園高等学校～



※自由すぎる研究®EXPO2026
最終審査結果発表はこちら ▶

中高生の探究学習の成果を企業団体が評価する『自由すぎる研究®EXPO2026』（主催:株式会社トモノカイ）。応募総数9,958件の中から最終審査結果が決まり、金賞（さんぽう賞）に佼成学園高等学校team『HOPE』を選出した。学習方法の多様化を目指し、AIで自動生成するアプリ「UTAMEMO」を制作。テストに協力した現場では反響も大きくメディアでも多く取り上げられている。常識にとらわれず、社会に疑問と提案を投げ続けるチーム7名の内代表2名に、熱く語ってもらった。

佼成学園高等学校　team『HOPE』
メンバー:【藤田光翔、湊悠、志岐瑛太、工藤優輔、橋川楽、園田琉征、田添義統】

文字の読み書きに頼らない暗記ツールを制作 発端は親友とのカラオケ

藤田: team『HOPE』のリーダーをしています。『HOPE』には文字通り「希望」という意味と「誰かを助けるための起業」をしようというチームの理念が込められていて、それに賛同してくれたみんなで結成したチームです。

中学生の頃、小学校からの親友がディスレクシア（文字の読み書きに著しい困難が生じる学習障害のひとつ）を抱えていて、勉強にすごく苦労していたのを目の当たりにしました。ただ、カラオケでは歌詞カードを一切見ずにミスなく何曲も歌えていて、なぜだろうと疑問に感じました。それから脳科学や音楽について色々調べて「音楽にはイヤーワーム効果という一度聞いた曲が脳内で繰り返される現象がある」「長期記憶に定着しやすい」などの根拠を見つけていき、音楽とAIを組み合わせたら、文字の読み書きに頼らない画期的な学習ツールができるのではないかと考え、暗記ソングをAIが自動生成するアプリ「UTAMEMO」の開発を始めました。

使い方としては、教材の画像をアップロードしAIに内容を解析させます。暗記ソングが生成されたら、再生するだけです。最初はチームリーダーの僕と副代表でプロトタイプを作っていましたが、思い通りにいかず危機感を持っていました。ですが、昨年の8月頃に情報工学系に明るい湊君がエンジニアとしてチームに入ってくれて一気に目指していた形になり、Webアプリとして実装・公開することができました。

まだ少ない日本語の歌詞AI 誰もが自然と口ずさむ暗記ソング生成アプリを目指して

湊: チームではエンジニアを担当しています。「UTAMEMO」はいわゆるローカルLLMという内製化したAIで作りました。特に独自性を持たせることには拘っています。

AIを自分たちで作ればコストも下がりますし、新しいデータにもなります。学習させる歌詞のデータ作成にあたっては、データと挙動の関連性を突き詰めるため、メンバーで一斉に作ってから僕が試していく工程をひたすら繰り返しました。それからAIが最適解を出せるように、手作業での修正をみんなで進めました。軽く1500曲は超えていて途方に暮れましたが、おかげで暗記ソフトに特化したAIを開発できたと胸を張って言えます。何より元々好きな分野だったので、探究に力を注いでいた日々は充実していました。

楽曲の生成には、当初「Mureka AI」を使用していましたが、現在はオープンソースの音楽生成AI「ACE-Step」をベースに、独自の学習やチューニングを行ったAIを使用しています。どうすればイヤーワーム効果のような勉強に向いているメロディーを作成できるのか、重点的に考えました。一方で歌詞の学習は、日本語の歌に特化したAIが少ないため難しかったです。生成される歌は、韻が英語風になってしまい、良いリズムが取れずにいました。そこで新たに情報を読ませたり、子供向けには曲のテンポを早くしたりと試行錯誤しました。

藤田: 曲のテンポについては、僕自身が結構ラップのリズムで覚えていたこともあって、ビートがずっと同じだと良いのではないか、と仮説を立てたこともあります。結局は自分の好きな楽曲や曲調が重要だと考え、それに対応できるようにしました。

湊: その結果、同じ歌詞に同じメロディーを合わせるアルゴリズムを作れましたし、楽曲のジャンルも豊富に揃っています。

他言語にも対応していて、現在は日本語、英語、中国語、スペイン語、オランダ語、フランス語の6か国語です。グローバルコースがある高校なので外国語を話せる生徒が集まっていて、非常に助かっています。

中学校や子ども向けプログラミングスクールで実証実験 確かな手ごたえを感じる

藤田: 効果の検証は学校の先生と連携し、いくつかの教育現場にご協力いただきました。小学生が通うプログラミングスクールのArschoolでは10名の児童に体験してもらいました。自分の好きな曲と組み合わせられるのが大きいのか、子どもたちも楽しく学べていました。歌を自然と口ずさむ子もいて、確かな手ごたえが感じられました。この経験から「やはり学習方法を変えれば苦手意識は変わるのでは?」と仮説を得たのですが、振り返ると、この探究を大きく動かした発見でした。反響も凄くて、中学校の授業参観でも1クラスに試してもらいましたが「このアプリはどこで使えるのか」と聞かれたと、先生からは伺っています。

高校生ビジネスプランコンテストで最優秀賞 メディアでも取り上げられるように

藤田: コンテストや大会にはいくつか応募していますが、大体は自分たちで調べたり、学校の掲示板から見つけています。『自由すぎる研究』については学校の先生に紹介していただきました。成蹊大学の高校生ビジネスプランコンテストは、初めて応募したコンテストでしたが、最優秀賞を取れた瞬間はとても感動して今でも忘れられません。それからは他でも賞が取れるようになりました。このことから、フィードバックから新しい発見ができるかもしれないので、大会に何度も出してみるのは凄く大切だと思いました。

今年2月にあったコクヨさん主催の【登龍モブ】で優勝できたことでアプリ開発にも良い影響がありました。その時にお声掛けいただき、サポートを受けられるようになりました。具体的にはコクヨさんが展開しているClearnote（勉強ノートをインターネット上に公開するサービス）の膨大なデータを提供していただいています。おかげでアプリ精度向上の研究をより深められるようになりました。

学習方法の多様化を目指して これからも社会に問い続けたい

藤田: 僕としては「UTAMEMO」のような、学習方法を多様化させる活動を進めていきたいです。現在は紙に書くのが一般的ですが、人によって最適解は違うことを伝えていきたいです。今でもディスレクシアについて探究しています。行政が認めているディスレクシアは32万人ほどですが、2万人ほどしかサポートを受けられていません。「自分だけ学習方法が違うことに心理的課題があるのではないか」と考えていますし、解消するための学びのツールが最初から学校で選べるような状態なのが望ましいと感じています。一人ひとりが自分に一番合う学習方法を選べるようにするために、これからもこの探究を突き進めていきたいです。

湊: 僕は今回の「UTAMEMO」のようなアプリやAIの開発を続けていきたいです。特にAIにはかなり興味を持ちました。AIはこれからの未来そのものでもあるので、仕組みや限度はどこなのか考えています。本当に色んな分野で活躍しているので、この人工知能がどのような未来を形作るのか、今の挙動からでもある程度推測はできるので、それをメインに探究しています。ハードウェア的な分野もかなり好きなので、並行して学んでいきたいです。


Clearnoteでのインターンシップの様子



TiBでの取材の様子



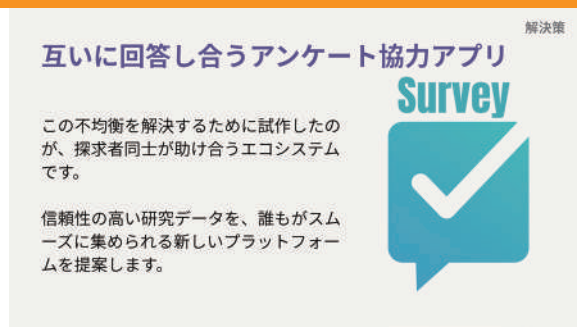
成蹊大学 高校生ビジネスプランコンテストで最優秀賞を受賞した様子

探究学習特集　受賞者インタビュー②

大半の探究者が抱えるアンケート収集の苦悩 アプリを用いた相互協力システムで 環境改善を目指す

～二松学舎大学附属柏高等学校～

中高生の探究学習の成果を企業団体が評価する『自由すぎる研究®EXPO2026』（主催:株式会社トモノカイ）。応募総数9,958件の中から最終審査結果が決まり、金賞（さんぽう賞）に二松学舎大学附属柏高等学校3年のY.Eさんを選出した。探究学習に使うアンケート調査で苦労した経験から、アプリ「Survey」を制作するまでに至る。日本の探究学習が抱える構造的な問題を熱く語ってもらった。



※自由すぎる研究®EXPO2026
最終審査結果発表はこちら ▶

二松学舎大学附属柏高等学校
Y.E さん

アンケートの偏りを解消したい 自身の経験をきっかけにアプリを制作

勉強でStudyplus（勉強記録や学習管理ができるアプリ）を使っていて、教科ごとのアイコンを作ってみたくなったのがきっかけです。それぞれの教科のイメージを調査してデザイン化するために学校でアンケートを実施しました。校内の同学年を中心に回答を集められましたが、世代も地域も近いので回答にどうしても偏りが出てしまいました。探究をする上でこれは改善すべきことですし、同じような悩みを抱える人は他にもいるのではないかと考えました。

この仮説を確かめるために、LINEの相互回答するオープンチャットで中学生から社会人までの層にヒヤリングしました。大半がSNSや友人経由で回答を集めていて、約90%がそれを大変だと感じていると判明しました。回答者集めに苦悩しているのは個人的な問題ではなく構造の欠陥なのだと確証を得ます。使いやすいアンケート収集システムが存在しない構造的な問題がために、探究学習を大きく阻害しているし改善もしなければならない。それなら新しいシステムを作ってアンケートの偏りを解消できればと思い、探究を始めました。

『自由すぎる研究』に応募しようと決めたのは、学校の学年集会で先生がお話されていたからです。それまでは少しずつ進めていましたが、応募に向けて本格的に探究を進め、大体1ヵ月ほどで完成させました。

「give&take」をコンセプトに 探究者同士が助け合う データの信頼性が上がるシステムを構築

アンケート用アプリの試作には「Base44」という言葉を入力するだけで、アプリやWebサイトなどをノーコードでAIが自動生成してくれるアプリを使用しました。

試作品は「Survey」と名付けました。このアプリは「give&take」をコンセプトに、探究者同士が助け合うよう設計しました。誰かのアンケートに答えると溜まるポイントは「ブースト機能」というアプリのプラットフォーム内で自身のアンケートを上位に表示させるために使用します。つまり誰かに協力すればするほど、自身の探究がより捗る仕組みです。

また、アンケート結果の質の向上を目指す仕組みも導入しました。回答者の人脈から生まれるデータの偏りを解消したかったので「ターゲット・インセンティブ」を組み込みました。特定の年代が回答すると、ボーナスポイントが付与できるようにしています。友人や知人での調査では、幅広い年代からの回答を集めるのはどうしても難しいです。中にはLINEのオープンチャットで「お母さん世代やおばあちゃん世代にもお願いします」と文言を付けて呼びかけている人もいました。このシステムを使えば、研究データの代表性と信頼性を飛躍的に高められると思います。

さらにアンケートでは、いくつかの注意チェック質問をAIが自動生成しています。「必ず最初の選択肢を選んでください」のような、探究内容に全く関係のない質問が時折挟まれる仕様です。指示通りに回答しているか判定できるので、データの信頼性や回答のクオリティが保証されます。他にも、ユーザーにハートを付けられるようにして、コミュニティ内での信頼と貢献度を可視化したり、自分の研究内容を公開してユーザー間での共有や共感が得られるようにしたりしています。

全く初めての経験で大変だったアプリ制作 友人との会話が原動力に

開発では友人との会話がとても助けになりました。その子と話すと自分のイメージが広がっていくからです。YouTubeの広告で見た「Base44」を話題に出した時に友人は「アプリは今リリースされているので足りてるよね」と言っていたのですが、私は「本当にそうかな?」と疑問を抱いたのを今でもよく覚えています。探究の話をする度に色々反応してくれたので、思考の壁打ちになりました。私が自分でどんどん作るタイプなので、進捗にリアクションしてくれた友人には感謝しています。

大変だったのは、「Base44」のAIで「Survey」を作るときに100%自分がイメージした完璧なものになるとは限らなかったので、結局自分で細かく言語化してコードを打っていたことです。ただそれと表裏一体ですが、「Base44」のAIが全部やってくれないからこそ、自分で設計するのが楽しかったです。探究の方向性が正しいのか不安になることもありましたが、私は普通の机で座ってする勉強よりも、自分で考えることが昔から好きだったのであまり苦ではなかったです。振り返って思うのは、やっぱり楽しむのが大切だということです。どんな些細なことでも自分がやりたい、ちょっとしてみたい、楽しそうだと思えたら、探究はどんどん広がってくので、好きなことを伸ばすのが良いと思いました。

『自由すぎる研究』でいただいたコメントにも助けられました。プレゼンの内容は審査員が評価してくれるので、ありがたかったです。評価項目が6つに分かれていて、項目ごとに点数が付けられますし、改善した方が良いポイントがまとめられています。具体的には「データの信頼性をもう少し高められると良い」とコメントをいただきましたが、アプリ内で同意の質問を入れたり、投稿に通報機能を入れるかどうか検討ができたりしました。

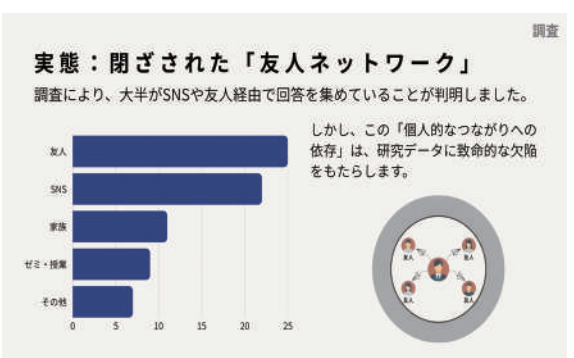
新しいことへの挑戦が好き 完成作は大学進学後に 将来はシステムデザインを学びたい

「Survey」の今後の展望としては、まず実証実験と精度の追求です。特定のコミュニティで試験運用を始めて、探究者同士が助け合うサイクルが構築できているか検証したいです。フィードバックを即座に反映し、より直感的なインターフェイスになるよう試行錯誤していきたいです。また、アプリの専用ドメインの取得とサーバー構築を行って一般公開もしようと考えています。ユーザー自身がアンケートや研究結果を他のSNSでシェアすることで、認知度と信頼性を高められればと思い描いています。「Survey」のブラッシュアップは私が今受験生で時間が厳しいので止めていますが、大学に進学したら再開して進めていきたいです。

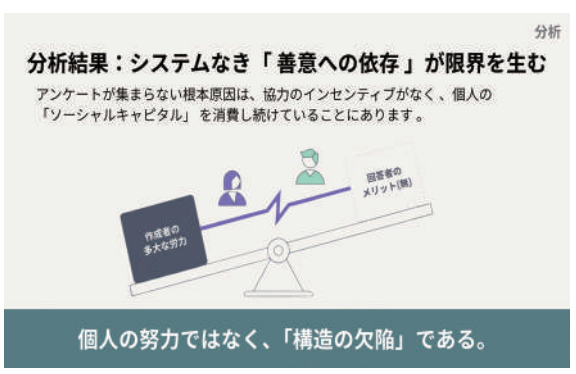
また、今回の探究でシステムデザインが自分にとって、かなり向いていることに気づけました。それまではビジュアルデザインが楽しいと思い、元々高校1年生くらいからずっとデザインを学びたくて、ビジュアル系統の進路を思い描いていましたが、今はUI・UXデザインが学べる美術大学に進学して、デザインと工学の両方を学びたいと考えています。新しいことをやるのが好きなので、この探究に出会えたのは良い機会でした。これからもアプリの実装に向けて走り続けたいと思います。



実体験から見えた「収集システム不在」の課題



LINEオープンチャットの調査で判明した「アンケート回収元の偏り」



インセンティブ不足がもたらす構造的欠陥の分析図

探究学習特集　スペシャルインタビュー

生徒が〝主人公として歩む〟奇跡の道創り
ー「進路研究室」からの新しいキャリア教育ー
～清明学院高等学校 総合コース～



生徒が自由な発想で課題に取り組む「成果発表型」探究学習が盛んになり、コンテストの応募数も格段に増えた今日。成果が大学入試の「総合型選抜」に採用され、受験対策にも影響が及んでいる。一方でこの流れとは一線を画し、各自が「高校卒業後の環境を知り、最大限に自分の歩みに活かす進路創りをさせる」大阪・清明学院高等学校総合コースの探究学習が注目されている。「進路研究室」を舞台に、生徒一人ひとりが教員や教育機関、企業の協力を得て行動し、「知る」「考える」そして「決める」。多様な進路選択への気づきを促すさまざまな“仕組み”が機能し、自分の人生を生きる道標となっている。8年連続で3年生担任を務める進路研究室室長の吉本光作教諭と植並椛さん（3年）に事例を伺った。



清明学院高等学校　進路研究室 室長
進路指導部　就職担当　**吉本　光作**教諭

行き先の〝本質〟へと導く指導
高校で育む「キャリア教育の軸」

本校の総合コースでは大学、短大、専門学校への進学から就職まで、全ての進路に対して強力なサポートが可能です。そのような環境であるからこそ、学校教育における進路指導の到達点を築こうと考えました。進学する生徒には、卒業後の教育機関において、本来の役割や特徴を活かした成長を遂げさせることを重視します。

なかでも大学は、文系理系問わず「研究」を大事にしており、教授の元で、その手法を身に付けることを目標とします。学んで得た専門知識や経験から、自分の主観である閃きやアイデアを仮説として捻り出し、客観的なデータや事象にて裏付けや証明を行う。これらの「研究」手法はその後の人生に大いに役立つだけでなく、社会に対して会社から自分オリジナルを創出するような、究極の当事者感覚を得ることへと繋がります。これらは自身の人生としての在り方にも好影響を与えるので、「大学をいかに活用するか、どう過ごすか」を浸透させることが大事だと考えます。

生徒の進路相談の場を一元化
放課後の「進路研究室」へ

「進路研究室」は私の教室（3年生）であり、「進路指導室」とは別にあります。放課後や長期休暇期間に開放しており、総合コースの生徒は誰でも利用できます。教育機関のパンフレットや企業からの求人票をそろえており、私が常駐する中で生徒の進路相談や総合型選抜入試の対策、勉強を見ています。また、カレンダーを提示して、対策や相談が可能な日時を生徒に案内します。教員の中にはクラブ活動等で放課後の指導が難しい方も多くおられるため、他クラスの担任や様々な教員が進路研究室に集まることで一元化し、生徒の進路相談や対策をより深く、公正に行えるよう活動しています（写真参照）。

「キセキの3部会」・「近大プロジェクト」・「5者面談」

進路研究室の中心的なイベントとして「キセキの3部会」と「近大プロジェクト」「5者面談」があります。

「キセキの3部会」は教員、生徒、教育機関・企業の各頭文字「キセキ」で、順を追って①教育機関や企業から講師を招いて分野説明会を実施します。②講師のキャリアや人生観を聴く座談会。人生の先輩のこれまでの軌跡から生徒の職業観を醸成する機会にもなります。③教員と教育機関・企業との情報交換会を開催しています。教育機関からは入試広報の方、企業は求人票を持参された担当者を中心に協力を仰いでいるため、生徒のキャリア教育を支える私たち教員が学校や業界の現在を知るための学びの場としても機能しています。今年度は10校・10社から計30名程お越しいただきました。

「近大プロジェクト」は、総合コースから「学力試験」で挑戦したい志がある生徒に、私が進路研究室にて、「生物」を教え近畿大学生物理工学部に挑戦させます。令和6年度からスタートし、多くの合格者がでています。また近畿大学から講師やOBを招いて「キセキの3部会」を実施し、合格後のキャリアを見据えた活動も行っています。

就職生徒は最も大きな選択をする生徒です。職場見学には私が1人ずつ連れて行くようにして、大人の世界へ踏み込む心構えをさせます。内定受諾後は私・担任・生徒・企業代表者・保護者を進路研究室に集め「5者面談」をおこなうことで、企業が新たに社員を迎えるに至る相互信頼を育む場にもなっています。

1年生から始めるキャリア教育

キャリア教育は、方向性をガイダンスによって示すことや、各学年で適切なイベントを行うことが大事です。（進路ガイダンスは1年生2回、2年生3回、3年生4回実施）1年生は職業体験を実施しています。病院や福祉、店舗販売、左官、神社巫女、自衛隊など多岐にわたる業界の方にご協力いただき、神社以外は校内での開催です。またキセキの3部会の講師からの提案で、協同性を養うペーパータワーゲームも行いました。2年生には学校説明会と分野説明会を実施。学校説明会では講師を招き、短大や職業能力開発校の説明から専門学校との違いや特色を理解させます。分野説明会では、私が20～30の学問分野を説明し、生徒に興味のある分野から、進学希望の学校種を検討させることで、最終学年に向けた準備をさせます。

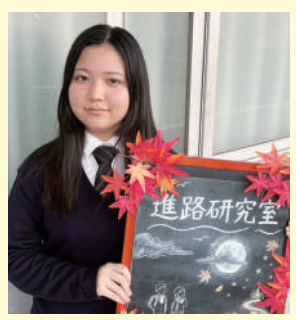
大学時代から構想した高校生の進路指導
母校の教員として実現

私が進路指導やキャリア教育に関心を寄せたのは、大学在学中からです。本校（特進コース）卒業後は近畿大学に進学しましたが、中学生の頃から偏差値至上主義の背景や旧態依然の進路指導に違和感がありました。大学で何ができるかを構想しているなか20歳のときに進路指導を研究することを決め、その後は生物学研究のノウハウを「キャリア教育研究」に手法を活かすことで、後半の2年間は本来あるべき大学生の過ごし方ができたと思います。「進学先や、入社企業ではない、本人の歩む物語としてのキャリア教育」を、企業を巻き込んで現場で実践したい。卒業後は理科教員をしながら進路指導を研究する道を見出しました。教員として入職後は、生活指導や教科指導にも奔走し、その経験から生徒の歩む道を「共に創る」ことの重要性に気づき進路指導を行っています。

【事例紹介】

希望職種の本質を見極め、職業観を醸成するアドバイスで最適な進路を再考

総合コース3年　植並 椛さん



●進路研究室での活動記録

1年生　職業体験で興味のあった住吉大社「巫女」や病院医療などの職業体験にも参加する。

2年生　ブライダル業界に関心を寄せ、進路検討する中で進路研究室にて吉本先生に相談。

3年生　職場見学に5回、「キセキの3部会」では5校5社に参加する。

★吉本先生の分析、助言

植並さんはきものなど日本文化が好きで日舞部にも所属しています。勤勉で心優しい性格であり、人の幸せを支えることを仕事にしたいと希望していました。ブライダル関係の職種として、1年生で職業体験に行った住吉大社では神前結婚式があることから、植並さんの中で、ブライダルと巫女の仕事は繋がりました。しかし高卒就職にむけて、ミスマッチがないかどうか進路研究室で様々な取り組みに参加していく中で、国語力の高さや物事に対する探求力の高さにも気づきました。

植並さん　「3年生になってからは職場見学と熟慮を重ねて住吉大社で巫女になると決めていました。キセキの三部会に参加する中で、様々な教育機関や分野を知り、企業で働く方々からたくさんのお話を聞いた中でも、巫女として働きたいという気持ちが揺らぐことはありませんでした。

最後に「就職ガイダンス」として吉本先生が教師としての経験や人生観をお話しくださった際に、働くことや生きることのリアルさを初めて感じました。そこで、自らの努力や経験が、自分の為だけでなく生徒の未来を支えることができるという点が、私の軸である、人の幸せを支えることを仕事にしたいという思いと繋がりました。卒業後は大学に進学して国文学を研究し、教師を目指したいと考えています」